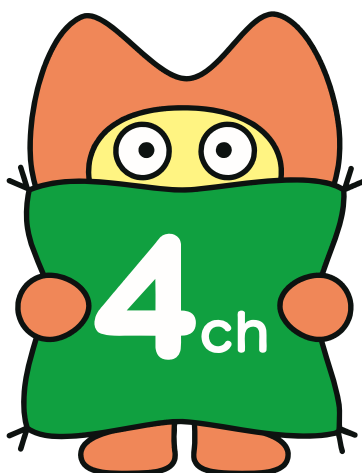


2025

第44回 テレビ信州杯長野県高等学校新人放送コンテスト (兼 第26回 長野県高文連放送専門部 県フェスティバル)

大会実施要項



11月15日(土) 開会式

審査 予選：オーディオメッセージ(AM)部門・アナウンス部門・朗読部門

決勝：CM部門・テレビフリー(TVF)部門

11月16日(日) 審査 決勝：ビデオメッセージ(VM)部門・オーディオメッセージ(AM)部門
アナウンス部門・朗読部門

閉会式

会 場 長野市勤労者女性会館しなのき 大会ホームページ

<https://nkoukouhousou.wixsite.com/nkhousou>

主 催 長野県高等学校文化連盟放送専門部(兼主管)

共 催 (株)テレビ信州 長野県高等学校視聴覚教育研究会

後 援 長野県教育委員会

生徒日程表

11月15日（土）《決勝》CM部門/TVF部門 《予選》AM部門/アナウンス部門/朗読部門 公開審査

★今大会では「ビデオメッセージ部門」の予選は行いません。決勝（16日）のみ行います。

9:30～10:00	受付（ホワイエ）		
10:00～10:20	開会行事（2Fホール）（＊開会行事の際、座席の最前列を空けてください）		
審査会場①（2Fホール）		審査会場②（3F視聴覚室）	
10:30～11:15	《予選》オーディオメッセージ（AM）部門	～11:15 読み練習会場	
11:30～12:00	《決勝》CM部門	11:15～12:30	《予選》アナウンス部門
12:00～13:30	昼食	12:30～13:30	昼食
13:30～15:30	《決勝》テレビフリー（TVF）部門	13:30～15:30	《予選》朗読部門
15:30～	翌日の準備 係職員・生徒	15:30～	翌日の準備 係職員・生徒

11月16日（日）《決勝》AM部門、VM部門、アナウンス部門、朗読部門 公開審査

9:00～9:15	予選審査結果発表（ホワイエ・その他に結果を掲示）
9:30～9:40	受付（ホワイエ）
9:45～10:00	講評（CM・TVF）、審査員紹介、諸連絡
10:10～10:40	《決勝》オーディオメッセージ（AM）部門
10:40～11:30	《決勝》ビデオメッセージ（VM）部門
11:30～12:30	昼食 ホワイエなど（審査会場準備）
12:30～13:30	《決勝》アナウンス部門・朗読部門
14:00～14:30	審査講評（閉会行事開始まで休憩）
14:30～15:00	閉会行事（2Fホール）
15:10～15:30	上部大会手続き（第2会議室） 17:00までに退館してください

諸注意

1. 大会全体を通じて

(1) 発声練習について

1日目 ・視聴覚室（審査開始前まで） ・第2会議室（昼休み前まで） ・音楽室（1日使用可能）

2日目 ・視聴覚室 ・音楽室

(2) 他の団体も施設を使用しています。廊下は静かにし、発声練習は控えてください。ホワイエ等に貴重品を置かないようにしてください。

(3) 自転車は建物側の通路に、建物に寄せて駐輪してください。

(4) ホール内の飲食はキャップ付きの飲料のみ可能です。昼食は、ロビー、2Fホワイエを使用してください。

(5) 会場に、駐車場はありません。長野市役所の駐車場、民間の有料駐車場をご利用ください。

(6) ゴミは各自で持ち帰ってください。

2. 大会運営に関して

(1) 全日程を良識ある行動で過ごしてください。場合によっては退出をお願いする場合があります。

(2) 進行は時間通りにならない場合もあるので、余裕をもった行動をお願いします。

3. 審査中について

(1) 「決勝」で番組部門（VM・AM）に参加する学校は、作品上映発表に先立って、作品の制作意図を30秒（200字）程度で代表1名が発表してください。（審査対象とはしません）

(2) 番組部門においては、受付で渡されたアンケート用紙に、各作品の感想を書き、審査終了後にホワイエテーブルの高校名の書いてある袋に入れて下さい。

(3) 審査中の会場出入りは遠慮ください。やむを得ない出入りは、発表間に静かに出入りして下さい。

(4) 審査会場では特に静粛を保ってください。携帯電話等の電源は切っておいてください。建物内のコンセントは使用禁止とします。

(5) 審査中の写真撮影は禁止とします。通路には三脚等は立てないでください。

また、開会・閉会行事中の、特に舞台での写真撮影は禁止します。（係による代表撮影を行います）

<アナウンス・朗読部門>

(1) 10人ずつ前に出て控え席に座り、進行係の先生の指示に従ってください。

(2) 机に入退席するときに礼はせず、進行係の先生は特に合図を送らないので準備ができたならアナウンス・朗読を始めてください。

机上には、録音のためのマイク器具類は一切置かないでください。また、機器のON、OFFは発表の途中で行わないでください。

(3) タブレット等の電子機器に、原稿データを入れて使用することはできません。

4. 全国総文祭・北信越大会出場校の顧問は、全日程終了後、残って指示を受けてください。

役 員 日 程 表 (敬称略)

11 月 15 日 (土) 《予選》AM 部門、アナウンス部門、朗読部門 《決勝》TVF 部門、CM 部門 公開審査

★今大会では「ビデオメッセージ部門」の予選は行いません。決勝(16 日)のみ行います。

8:30~	機材搬入・会場準備(長野吉田・岡谷南 対象校は 8:30 に玄関集合)	[2F ホール]
9:00~	顧問集合 挨拶、簡単な打ち合わせ(田村・利根川) 会場準備(ステージ:岡谷南 視聴覚室:長野吉田 審査員席:長野) 音響・映像仕込み(笛田・奥原) →各分校分担当 長野吉田:視聴覚室 蟻ヶ崎:照明と音響 松商:会場カメラ 岡南:映像送り出し 受付準備(熊坂 長野西生徒)	[2F ホワイエ] ※顧問挨拶終了後、 進行係・計測係 打ち合わせ
9:15~9:45	審査打ち合わせ会議(進行:小林(第3会議室)／内山(応接室))	
9:30~10:00	受付 長野西 生徒 5 名(岡谷南 中務、長野 伊藤)	[2F ホワイエ]
10:00~10:20	開会行事 司会 岡谷南 利根川 1. 挨拶 高文連 市川 格(放送専門部副会長・大町岳陽高等学校長) テレビ信州 篠原 弘和(テレビ信州 報道制作局長) 2. 杯返還・レプリカ授与 岡谷南高校(昨年度 VM 部門 TSB 賞) 返還・授与:稲村 享志(テレビ信州 スポーツ担当部長) 介添(田村) 3. 審査員紹介 放送専門部事務局長(田村) 4. 大会アドバイザー紹介 生田和徳(STUDIO IKUTA) 5. 諸注意 コンテスト事務局 利根川 ※開会行事終了後、昨年の TSB 賞受賞者はレプリカを受けとる(ステージ)	[2F ホール]
ホール 10:30~12:00 視聴覚室 11:15~12:30	審査(公開) 審査会場①ホール 《予選》オーディオメッセージ(AM)部門 《決勝》CM 部門 (進行:伊藤真 技術:笛田) 審査会場②視聴覚室 《予選》アナウンス部門(進行:小川 技術:押野)	
12:30~13:30	昼食 <審査会 統括(小林)[第3会議室] / 統括(内山)[応接室]> ※12:40 より顧問会①(昼食をとりながら)[第2会議室]	
ホール 13:30~15:30 視聴覚室 13:30~15:30	審査(公開) 審査会場①ホール 《決勝》CM 部門、テレビフリー(TVF)部門 (進行:伊藤真 技術:笛田) 審査終了後 審査会 統括(小林)[第3会議室] 審査会場②視聴覚室 《予選》朗読部門 (進行:小川 技術:押野) 審査終了後 審査会 統括(内山)[応接室]	
15:30~	翌日の準備 係職員・生徒 片付け(視聴覚:長野吉田)	[2F ホール]

11 月 16 日 (日) 《決勝》AM 部門、VM 部門、アナウンス部門、朗読部門 公開審査

8:45~9:45	8:45 専門委員集合 9:00 予選結果揭示 9:15 審査打ち合わせ会議(進行 内山)	[3F 第3会議室]
9:30~9:40	受付 長野西 生徒 5 名(岡谷南 中務)	[2F ホワイエ]
9:45~10:00	・講評(TVF・CM) ・審査員紹介(事務局長 田村) ・諸注意	[2F ホール]
10:10~10:40	審査《決勝》オーディオメッセージ(AM)部門 進行 松商 向山	[2F ホール]
10:40~11:30	審査《決勝》ビデオメッセージ(VM)部門 進行 松商 向山	[2F ホール]
11:30~12:30	昼食 審査会 統括(内山)[第3会議室] ※11:40 より顧問会②(昼食をとりながら)[第2会議室]	
12:30~13:30	審査(公開) 《決勝》アナウンス部門・朗読 進行 松商 向山	[2F ホール]
14:00~14:30	13:30~ 審査会(統括:内山) 審査講評 番組部門 松澤 亮(テレビ信州 統括プロデューサー) 読み部門 稲葉 陽子(テレビ信州 アナウンサー)	[3F 第2会議室] [3F 第3会議室]
14:30~15:00	閉会行事 司会(岡谷南 利根川) 登壇者案内(松商 新家) 1. 審査結果発表 事務局長 田村 哲子 2. 表彰(TSB 賞のみ) ・結果発表 ・賞状授与 高文連放送部会 西林 昭隆(高文連放送専門部会長・梓川高等学校長) ・最優秀賞カップ授与 稲葉 陽子(テレビ信州報道制作部次長/アナウンサー) 介添(松商学園 新家) 3. 挨拶 高文連放送部会 西林 昭隆 高木 真一郎(テレビ信州 制作担当部長) 4. 諸連絡 事務局	[2F ホール]
15:00~	会場片づけ 中継カメラ(松商)、調整室(蟻ヶ崎)、ステージなど(岡谷南) 15:10~ 上部大会手続き 事務局長 [3F 第3会議室]	
17:00	機材運搬・完全退館	

審査員・役員一覧表 （順不同・敬称略）

審査委員長	長野県高等学校文化連盟放送専門部会長	西林 昭隆（梓川高等学校 校長）		
副審査委員長	長野県高等学校文化連盟放送専門部理事長	落合 康隆（上田染谷丘）		
事務局	落合 康隆 田村 哲子 笛田 勇樹 新家 啓太 利根川 尚吾			
11 月 15 日（土）		11 月 16 日（日）		
審査会場① 《予選》オーディオメッセージ(AM)部門 《決勝》テレビフリー(TVF)部門、CM 部門 いなむら たかし 稲村 享志（テレビ信州 報道制作部スポーツ担当部長） ※ CM・TVF 小林 稜弥（上田西）【統括】 落合 康隆（上田染谷丘） 田中 一彦（屋代） 熊坂 義人（長野西）		《決勝》オーディオメッセージ(AM)部門、ビデオメッセージ(VM)部門 アナウンス部門、朗読部門 たかぎ しんいちろう 高木 真一郎（テレビ信州 報道制作部制作担当部長） ※AM・VM まつざわ りょう 松澤 亮（テレビ信州報道制作部統括プロデューサー） ※AM・VM いとう しゅういち 伊東 秀一（テレビ信州 解説委員/アナウンサー） ※アナウンス・朗読 いなば ようこ 稲葉 陽子（テレビ信州報道制作部次長/アナウンサー） ※アナウンス・朗読		
審査会場② 《予選》アナウンス部門、朗読部門 浅井 みどり（フリー・元テレビ信州アナウンサー） ※アナウンス・朗読 内山 由香里（伊那北）【統括】 小林 万喜子（南安曇農業） 新家 啓太（松商学園） 瀬木 千登勢（上田）		内山 由香里（伊那北）【統括】 曾根原 洋一（大町岳陽） 押野 佳明（松本県ヶ丘） 瀬木 千登勢（上田） 小林 稜弥（上田西）		
役割分担				
係名	氏名（所属）		主な任務	備考
	15 日（土）	16 日（日）		
総務	西林（梓川）※16 日のみ ○田村（上田） 落合（染谷丘） 利根川（岡谷南） 上田（長野吉田）※16 日		大会運営統括 審査結果発表 全国大会手続・会計	(株)テレビ信州エンタープライズ 3 名
進行	番：伊藤（長野） 視聴覚室：小川（松商）	向山（松商）	司会・時間管理	
審査統括	番：小林（上田西） 読：内山（伊那北）	内山（伊那北）	審査会のとりまとめ	
台本審査	○伊藤（長野吉田）	伊藤（長野吉田） 新家（松商）	著作権処理台本様式 チェック	著作権関係は大会後再度チェック
計測 原稿チ ェック	○須藤（蟻ヶ崎） 窪田（つくば開成） 金山（染谷丘）	○山元（大町岳陽） 小坂（穂商） 三好（エクセラン）	・時間計測 ・台本との整合確認	・タイムオーバーは審査会までに、 審査統括と集計係に報告 ・読み部門予選で原稿チェック 1 名を配置
技術	ホール：笛田（阿智） 視聴覚室：押野（県ヶ丘）	準備補助：奥原・新家 準備補助：奥原・新家	技術全般	・蟻ヶ崎生徒（照明・音響） ・松商生徒（カメラ撮影）
集計賞状	○甲田（上田） 奥原（美須々） 山元（大町岳陽）	○甲田（上田） 奥原（美須々）	得点集計賞状印刷	・集計結果を直ちに審査会へ報告 ・審査講評を整理・返却
受付	中務（岡谷南）※長野西生徒	中務（岡谷南）	受付・提出物の整理審査 票・感想用紙の返却	1 日目はバックアップメディアを技術へ、 台本を審査統括と台本審査係へ 2 日目は、受付のみ
会場 ※空調 管理	1 日目 ホール 中務（岡谷南） 視聴覚室 押野（県ヶ丘） 2 日目 ホール 中務（岡谷南） ホワイエ 熊坂（長野西）		会場設営・片付け会場清掃 状況確認 ゴミ等ないよう徹底お願い します。	会場係は会場温度を確認し、必要に応じて 空調の管理を行う
記録	○熊谷（松本蟻ヶ崎）		記録写真撮影	

1.事前準備関係

【生徒補助員一覧】

受付補助	長野西
技術補助	カメラ：松商 PC：岡谷南 照明・音響：蟻ヶ崎
会場設営	視聴覚室：長野吉田 ステージ：岡谷南 審査員席：長野

【部屋割】

公開審査会場	ホール（2 階）視聴覚室(3 階)
練習会場	第 2 会議室・音楽室
大会運営本部（集計室）	第 1 会議室（3 階）
審査会	第 3 会議室・応接室（3 階）
顧問会（16 日のみ）	第 2 会議室（3 階）
上部大会手続き（16 日のみ）	第 2 会議室（3 階）

【準備物関係】

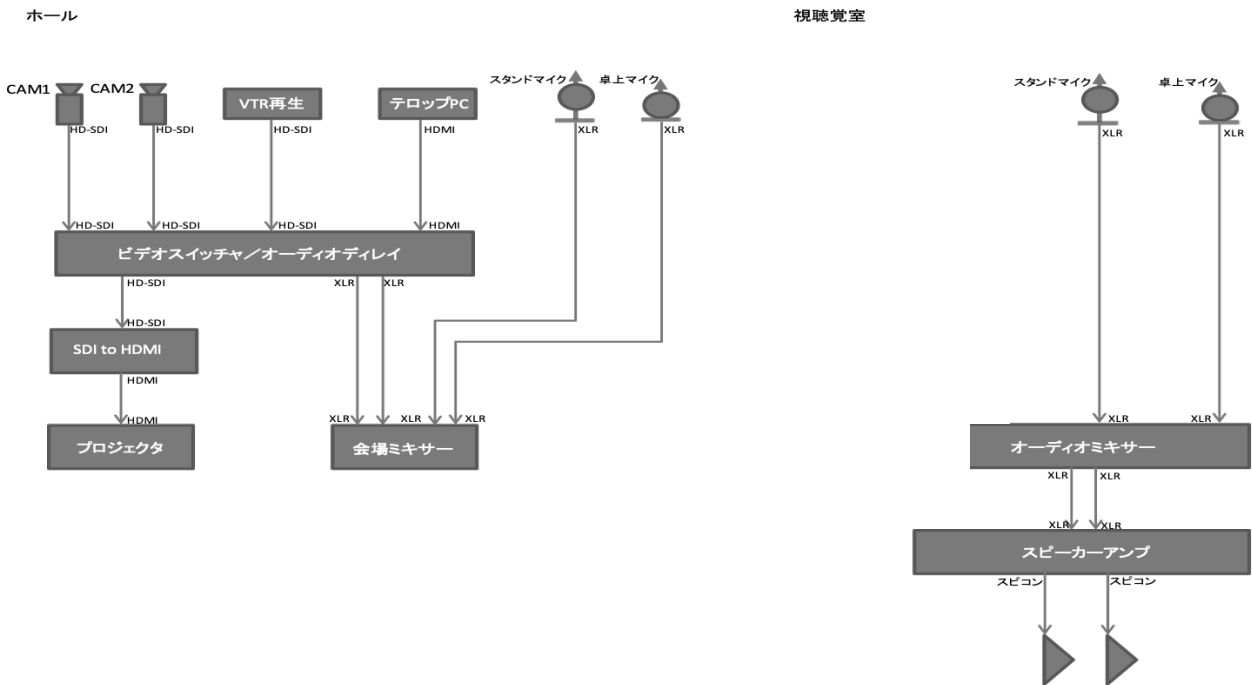
看板・掲示物（吊看）	TSB	アンケート用紙回収袋	田村
審査用紙・点数集計表	甲田	賞状用紙	TSB
運営要項	利根川	白布	TSB
生徒用パンフレット	利根川	賞状用お盆	TSB
アンケート用紙	利根川		

【運営事務関係】

パソコン(USB ケーブル)	田村
賞状プリンター	田村
プリンター	田村
プリンター用紙（A4、A3、B4）	利根川
事務用品（印章含む）	田村

2.技術関係

< 配線図 >



<機材リスト>

番号	品 名	数量	用意担当
1	審査用プロジェクター	1	エクセラン 1
2	スクリーン	1	しなのき
3	MULTI FORMAT VIDEO SWITCHER Roland V-50HD	2	美須々
4	ノートパソコン	3	エクセラン 1 (Macbook Air) 阿智 2 (レッツノート,Macbook Pro)
5	ビデオカメラ一式(NX-5)	3	美須々 (含む 三脚・電源・ケーブル)
6	レコーダー	1	美須々
7	PA システム	一式	美須々 → 長野
8	事務局機材一式 (含む電源タップ)	一式	上田
9	マイクロフォン	3	テレビ信州
10	マイクスタンド	2	テレビ信州 卓上フレキシブル+立ちマイク
11	マイクケーブル	3	テレビ信州 マイク⇄ステージ下手パネル 10m×2
12	ステレオ RCA-XLR	2	テレビ信州
13	電源ドラム	3	松商学園
14	スピーカーアンプ	1	美須々 → 長野
15	本部用 プリンター	2	上田 → 長野

4.今年度エントリー数一覧

学校名	AM	TVF	VM	CM	アナウンス	朗読	合計
松本蠟ヶ崎	1	1	1	3	6	6	18
上田			1		3	3	7
穂高商業					1	1	1
松本県ヶ丘		1	1		1	2	5
屋代						1	1
上田栄谷丘					1	5	6
松本美須々ヶ丘		2			6	6	14
長野吉田						4	4
長野					1	3	4
岡谷南	2	1	1	3	6	5	18
松商学園	2		2		2	6	12
大町岳陽	1		1	1	2		5
エクセラン		1				1	2
長野西	1	1				2	4
南安曇農業					1		1
上田西					1	1	2
つくば開成学園					1		1
総計	7	7	7	7	31	46	105

【参考】過去の大会参加数（回数は県大会の回数）

回数	AM	TVF	VM	CM	アナウンス	朗読	合計	参加校数
第43回	6	3	11	12	28	39	99	16
第42回	6	3	11	8	27	27	82	13
第41回	8	9	11	8	31	29	96	15
第40回	(AM)6	6	11	10	34	44	111	16
第39回	6	6	9	10	33	29	93	14
第38回	8	7	10	9	43	33	110	15
第37回	7	8	12	8	44	39	118	15
第36回	8	7	14	18	57	50	154	16
第35回	9	9	14	15	68	40	155	17
第34回	6	10	14	15	42	53	140	14
第33回	7	6	12		46	49	120	13
第32回	6	9	8		37	43	103	13
第31回	6	7	12		32	53	110	15
第30回	6	5	9		37	40	97	17
第29回	5	5	5		37	42	94	12
第28回	6	7	12		23	46	94	16
第27回	6	4	13		30	30	83	14
第26回	6	5	11		28	39	89	17
第25回	5	6	11		34	36	92	16
第24回	4	5	12		37	43	101	15
第23回	6	6	10		23	38	83	17
第22回	4	7	10		30	44	95	19
第21回	4	7	11		29	54	105	23
第20回	3	5	14		23	35	80	17
第19回	4	5	12		25	39	85	15
第18回	5	3	8		25	30	71	12
第17回	4	7	14		30	25	80	15
第16回	6	8	11		33	47	105	21
第15回	6	8	7		43	45	109	17
第14回	7	3	14		42	44	110	19
第13回	10	中止	14		48	49	121	18
第12回	7	9	10		67	63	156	20
第11回	4	7	9		50	45	115	19
第10回		7	9		68	57	141	21
第9回		3	7		51	46	107	21
第8回					53	45	98	20

<エントリー 全17校>

第 43 回 長野県大会 TSB 賞受賞校（受賞者）

《部門》

- ・オーディオメッセージ部門
- ・ビデオメッセージ部門
- ・C M 部門
- ・テレビフリー部門

《高校名》

大町岳陽高等学校
岡谷南高等学校
岡谷南高等学校
松商学園高等学校

《作品名／名前》

「 らいちょうの声から 」
「 信州！岡谷発見 」
「 筋肉！ 」
「 忘れないで、あの星の輝きを 」

- ・アナウンス部門
- ・朗読部門

岡谷南高等学校
エクセラン高等学校

矢 沢 光 喜
内 村 美 友

5. エントリー

【番組部門】

オーディオメッセージ部門 (AM)		
エントリー番号	学校名	タイトル
1	松商学園	消えかけ
2	岡谷南	大きく振りかぶって ¥
3	松本蟻ヶ崎	笑顔を届けたい
4	長野西	帰り道の味
5	大町岳陽	瓶から、もう1歩
6	松商学園	火焰を打つ
7	岡谷南	鼓動

ビデオメッセージ部門 (VM)		
エントリー番号	学校名	タイトル
1	松商学園	繋心
2	松本県ヶ丘	「満州」勤労奉仕の思い出
3	大町岳陽	麓の街からつなぐ
4	松本蟻ヶ崎	心を育てる
5	岡谷南	夢、あたため中です！
6	上田	ひとつの駅から
7	松商学園	One Soul

CM部門		
エントリー番号	学校名	タイトル
1	松本蟻ヶ崎	あなたは輝ける
2	岡谷南	青春完歩
3	岡谷南	渴峰
4	松本蟻ヶ崎	ぎんがに刻め 自分の軌跡
5	大町岳陽	共に
6	松本蟻ヶ崎	自分色で咲け 蟻高で見つける”私”
7	岡谷南	熱血!!平松塾!!

テレビフリー部門 (TVF)		
エントリー番号	学校名	タイトル
1	松本美須々ヶ丘	こっち向いて
2	長野西	明日はきっと
3	松本蟻ヶ崎	その席に、君はいた。
4	エクセラン	欲望。
5	松本県ヶ丘	自分らしさ
6	岡谷南	JKのキラキラvlog依存症
7	松本美須々ヶ丘	裏の華町

【読み部門】

アナウンス部門					
エントリー番号	学校名	氏名	ふりがな	学年	タイトル
1	岡谷南	福井 梓心	ふくい あずみ	2年	笠原新太郎さんについて
2	上田	平林 実樹	ひらばやし みき	1年	ほかほかじまん焼きのまち
3	松商学園	太田 勇真	おおた ゆうま	1年	みんなの笑顔の拠点
4	松本美須々ヶ丘	古川 政幸	ふるかわ まさゆき	1年	改装工事について
5	上田染谷丘	高橋 七海	たかはし ななみ	2年	やまぼうし自然学校について
6	大町岳陽	平林 真宙	ひらばやし まひろ	1年	松川村の移住促進について
7	松本県ヶ丘	河西 真央	かさい まお	1年	「寺子屋シアター」プロジェクトについて
8	上田西	飯塚 翔悟	いいづか しょうご	2年	みんなのかわせん交通
9	つくば開成学園	金尾 春奈	かねお はるな	1年	神道祭の担い手不足について
10	松本蟻ヶ崎	秦 彩音	はた あやね	1年	わんわんパトロール隊について
11	長野	中山 千穂	なかやま ちほ	1年	善光寺縁起について
12	南安曇農業	一柳 夏萌	いちやぎ なつめ	1年	微生物活用コースの研究について
13	岡谷南	関 優花	せき ゆうか	1年	江音寺の羅漢祭について
14	大町岳陽	吉田 心優	よしだ みゆう	2年	OYAKI9について
15	松本美須々ヶ丘	斉藤 大輝	さいとう だいき	2年	演劇部について
16	上田	工藤 希愛	くどう のあ	1年	上田電鉄別所線について
17	松本蟻ヶ崎	竹内 善輝	たけうち よしき	1年	松本城の動画サイト、天下を取る
18	松商学園	三枝 悠歌	さいぐさ ゆうか	2年	まごころで繋がる食卓
19	松本蟻ヶ崎	降旗 剛大	ふりはた こうだい	1年	夢のゴジラ像
20	松本美須々ヶ丘	川上 翔琉	かわかみ かける	1年	農家の一憲さんについて
21	岡谷南	中緒 涼太	なかお りょうた	2年	小西満さんについて
22	上田	斎藤 璃音	さいとう りお	2年	Kasaponプロジェクトについて
23	松本美須々ヶ丘	小澤 怜菜	おざわ れいな	2年	泣き相撲について
24	松本蟻ヶ崎	増澤 ひなた	ますざわ ひなた	1年	保護猫活動について
25	岡谷南	平出 真翔	ひらいで まなと	2年	結び家ふわりについて
26	松本蟻ヶ崎	小岩井 萌南	こいわい めいな	2年	寺子屋について
27	松本美須々ヶ丘	奥原 みお	おくはら みお	2年	林 米子さんについて
28	松本蟻ヶ崎	堀内 壱斗	ほりうち いちと	2年	蟻高書道部、中国への訪問について
29	岡谷南	井原 有優	いはら ゆゆう	2年	平和への願いについて
30	松本美須々ヶ丘	才竹 あやな	さいたけ あやな	2年	デリシアについて
31	岡谷南	松田 璃子	まつだ りこ	2年	八幡郊処について

朗読部門						
エントリー番号	学校名	氏名	ふりがな	学年	タイトル	作者
1	松本蟻ヶ崎	丸澤 璃一	まるさわ りいち	1年	神様のカルテ	夏川 草介
2	松本美須々ヶ丘	亀川 昊	かめがわ こう	1年	雨降る森の犬	馳 星周
3	岡谷南	谷 陽斗	たに はると	1年	言の葉の庭	新海誠
4	長野吉田	池田 柚芽	いけだ ゆめ	2年	生きる僕ら	原田マハ
5	松商学園	高木 瑛汰	たかぎ えいた	1年	ほしのこえ	新海誠
6	長野西	山崎貴弘	やまざきたかひろ	1年	火星の話	小嶋陽太郎
7	屋代	野口 知華	のぐち ともか	2年	サイレント 黙認	神津 凜子
8	松本県ヶ丘	田上 玄人	たがみ げんと	2年	小説 君の名は。	新海 誠
9	上田染谷丘	小林 夏光	こばやし かこ	1年	方舟	夕木春央
10	エクセラン	松岡 莉奈	まつおかりな	2年	風立ちぬ	堀辰雄
11	穂高商業	加藤 琉夏	かとう るか	2年	強力伝	新田 次郎
12	上田	林 綾乃	はやし あやの	1年	グランパのバケツリスト	岡沼 美樹恵
13	長野	清水 ひかる	しみず ひかる	2年	疾風ロンド	東野 圭吾
14	上田西	望月 木華	もちづき こはな	1年	風立ちぬ	堀辰雄
15	上田染谷丘	荻原 帆南	おぎわら ほなみ	1年	生きるぼくら	原田マハ
16	松本美須々ヶ丘	小林 健人	こばやし たけと	1年	勿忘草の咲く町で	夏川 草介
17	上田	上鹿渡 あい	かみかど あい	1年	風立ちぬ	堀 辰雄
18	長野吉田	石川 恵愛	いしかわ えま	2年	本を守ろうとする猫の話	夏川草介
19	岡谷南	高橋 歩花	たかはし ほのか	1年	すずめの戸締まり	新海誠
20	松本蟻ヶ崎	水野 陽菜	みずの ひな	1年	君の名は	新海 誠
21	長野	木村 真衣	きむら まい	1年	蛍と月の真ん中で	河邊 徹
22	松商学園	大彌 周	おおや あまね	1年	君を守ろうとする猫の話	夏川草介
23	松本県ヶ丘	遠藤 百恵	えんどう もえ	2年	風立ちぬ	堀辰雄
24	長野西	依田郁子	よだいくこ	2年	放課後のひとり同盟	小嶋陽太郎
25	長野吉田	宮本 怜奈	みやもと れいな	1年	生きる僕ら	原田マハ
26	松本蟻ヶ崎	百瀬 柊	ももせ しゅう	1年	新章 神様のカルテ	夏川 草介
27	岡谷南	中島 由姫	なかじま ゆき	1年	怪物	坂元裕二 佐野晶
28	上田染谷丘	北方 紗葉	きたかた さよ	2年	風立ちぬ	堀辰雄
29	松商学園	小林 杏由美	こばやし あゆみ	1年	orange	時海結似
30	長野	松橋 彩恵	まつはし さえ	2年	神様のカルテ	夏川 草介
31	松本美須々ヶ丘	小林 琉	こばやし りゅう	2年	河童	芥川 竜之介
32	上田	櫻木 理奈	さくらぎ りな	2年	犬神家の一族	横溝 正史
33	長野吉田	前田 明莉	まえだ あかり	2年	蛍と月の真ん中で	河邊徹
34	岡谷南	共田 華奈乃	ともだ はなの	2年	霧越邸殺実事件	綾辻行人
35	松本美須々ヶ丘	小林 汰槻	こばやし たいき	2年	放課後ひとり同盟	小嶋 陽太郎
36	松商学園	田中 裕理	たなか ゆうり	2年	秒速5センチメートル	新海誠
37	上田染谷丘	平野 七菜	ひらの なな	2年	言の葉の庭	新海誠
38	松本蟻ヶ崎	下沢 桜貴	しもざわ はるき	2年	始まりの木	夏川 草介
39	岡谷南	浦沢 咲音	うらさわ さな	2年	わたしの幸せな結婚	顎木あくみ
40	松商学園	中村 渚紗	なかむら なぎさ	2年	愛の疾走	三島由紀夫
41	上田染谷丘	宮寄 凜	みやざき りん	2年	君の名は。	新海誠
42	松本蟻ヶ崎	町田 明咲	まちだ めいさ	1年	小説・秒速5センチメートル	新海 誠
43	松本美須々ヶ丘	小口そら	おぐち そら	1年	母	久米 正雄
44	松本蟻ヶ崎	羽部 ひかり	はべ ひかり	2年	蜜蜂と遠雷	恩田 陸
45	松本美須々ヶ丘	山本 葵	やまもと あおい	1年	芙蓉の人	新田 次郎
46	松商学園	田中 千愛	たなか ちな	2年	星を追う子ども	新海誠

第 44 回テレビ信州杯長野県高等学校新人放送コンテスト 審査要項

長野県高等学校文化連盟放送専門部

審査会

- 1.審査員は各部門 6 名以上の審査員で構成し、2 名以上の専門職（放送局職員）と、4 名以上の教育職（放送部顧問）があたる。
- 2.審査委員長には長野県高等学校文化連盟放送専門部事務局長がその任にあたり、各部門の審査会を統括する。
- 3.審査委員長の委嘱を受けた各部門審査員代表は審査会の意見を整理し、講評を行う。

審査方法

- 1.全部門を公開審査で行う。
- 2.各部門の使用メディアと発表方法は次のとおりとする。

(ア) 番組部門（オーディオメッセージ部門・ビデオメッセージ部門・テレビ番組フリー部門、CM 部門）
動画データをビデオプロジェクターで再生する。事務局作成のタイトル静止画に続き、各校クレジットより再生する。
各作品冒頭のナレーション、インタビューのレベルを基準レベルとしステレオ再生する。

(イ) アナウンス・朗読部門
舞台上で発表しスピーカーの音声で審査する。
発表前にモニターレベル等を標準レベルにセットし、個々の発表者の音量調整は行わない。

表彰・上部大会推薦

- 1.別に定める基準により、参加全作品に、優秀、優良、奨励を授与する。
- 2.各部門 1 作品（計 6 作品）に「TSB 賞」を授与する。
- 3.優秀、優良、奨励の判定は以下による。
(ア)各審査員のつけた審査の観点ごと採点した点数を下記（採点・配点集計）に定める方法で、10 点満点に再計算して判定する。
(イ)予選を実施する部門は、下記に定める得点上位から規定数を決勝進出とする。（番組部門は、原則として部門ごと 1 校 1 作品とする）
 - ① アナウンス・朗読部門 各 12 名
 - ② ビデオメッセージ部門 6 作品
 - ③ オーディオメッセージ部門 4 作品
(ウ)予選を実施する部門は①決勝に進まなかった作品及び発表者は、優良または奨励賞とする。
②決勝に進まなかった作品及び発表者は 5 点以上を優良、5 点未満を奨励賞とする。
(エ)順位判定において、得点が同得点の場合は、下記の手順により判定する。
 - ① 得点合計（10 点満点）で高得点をつけた審査員の多い方を上位とする。
 - ② それでも同得点の場合は、審査員全員の投票により決定する。
 - ③ ①②の手順によっても決定できない場合は、合議による。
(オ)予選を実施する各部門の決勝では絶対評価により①参加全作品について、優秀、優良を与える。 ②7.5 点以上を優秀、7.5 点未満を優良とする。
(カ)決勝のみの部門は 7.5 点以上を優秀、6 点以上 7.5 点未満を優良、6 点未満を奨励賞とする。

4.全国高等学校総合文化祭・北信越選抜大会への推薦は、各部門とも高得点順に決定する。

(ア)全国高等学校総合文化祭への推薦について

令和 8(2026)年度 第 50 回全国高等学校総合文化祭 秋田大会(令和 8 年 7 月 29 日(水)～7 月 30 日(木))へ、以下の本数を推薦します。

- ・アナウンス部門・朗読部門 各 3 名
- ・オーディオメッセージ部門（AM） 1 作品
- ・ビデオメッセージ部門（VM） 2 作品

※各部門間（アナウンス部門・朗読部門・AM 部門・VM 部門）での同一高校の推薦を認めます。

ただし、部門内での同一高校からの推薦は 1 人または 1 作品とします。（前大会からの変更点です）

(イ)北信越選抜放送大会（北信越地区高等学校文化連盟主催）への推薦について

令和 7 年度第 22 回北信越高等学校選抜放送大会は令和 8 年 2 月 7 日(土)～8 日(日)に富山県で行われ、以下の本数を推薦します。

- ・アナウンス部門・朗読部門 各 6 名
- ・オーディオメッセージ部門（AM） 2 作品
- ・ビデオメッセージ部門（VM） 4 作品

※この大会への同一高校の推薦は、原則各部門 1 つとします。

また、棄権、失格等が生じた場合は、後日繰り上げて推薦する場合があります。

5.代表決定の際、同得点の作品が生じた場合は、次の手順によって代表決定を行う。

- ① 専門職点の合計が多い方を上位とする。
- ② 得点合計（10 点満点）で高得点をつけた審査員の多い方を上位とする。
- ③ それでも同得点の場合は、審査員全員の投票により決定する。

失格

- 1.様式規定（台本・原稿）や各部門の参加（制作）上の注意に反した作品は、当該校に事実確認の上審査会で審議し、専門部会長の責任において失格とすることがある。
- 2.コンテスト終了後、著作物の処理等が完了しないなどの理由で、以後の作品の公開ができないと判断される場合は、専門部会長の責任において、上部大会への推薦の取消、入賞の取消等を行うことがある。

採点・配点・集計

- 1.各審査員の独自の判断により採点する。
- 2.集計された得点を基にして審査会として集約し、審査結果にまとめる。
- 3.各部門とも別項の審査の視点ごとに、1点きざみの5点満点で採点する。
- 4.集計にあたっては、以下の方法で、小数点1位（2位以下を四捨五入）まで求め、得点とする。
(ア)審査の視点ごとに、審査員の得点の上下カットをして、平均点を算出する。
(イ) (ア) で求めた審査の視点ごとの平均点を、視点ごとの配点割合にしたがって、加重平均する。（10点満点とする）

審査基準

【1】アナウンス部門（A）

- 1.郷土（長野県内）の話題を全国の高校生に伝える内容の原稿とします。発表は、番号、学校名、氏名に続いて原稿を読むものとします。
発表時間は、学校名の第1声から1分30秒以内とします。
- 2.審査の視点として
ア. 原稿
（1）素材の選び方 （2）文章表現 （3）内容
イ. アナウンスの技術
（1）マイクの使い方 （2）発声 （3）アクセント （4）イントネーション（5）テンポ
（6）ポーズのとり方 （7）内容の把握

【2】朗読部門（R）

- 1.郷土にゆかりのある作家および作品の中から原文のままを一部選んで原稿とします。発表は、本文のみを読むものとします。
発表時間は、本文のみで1分45秒以内とします。
- 2.審査の視点として
ア. 原稿
（1）作品の選定 （2）朗読部分の抽出の仕方
イ. 朗読の技術
（1）マイクの使い方 （2）発声 （3）アクセント （4）イントネーション
（5）テンポ （6）ポーズの取り方 （7）内容の把握
- 3.アナウンス・朗読の配点について
各視点5点法で採点し、ア. の項を30%、イ. の項を70%として加重平均し計10点満点としたものを得点とします。

【3】オーディオ・メッセージ部門（AM）

- 1.郷土に関する話題を取り上げた作品とします。発表時間は4分以内とします。
- 2.審査の視点と配点
テーマ点5点と、制作技術点5点に分けて配点する。
ア. テーマ点（5点）
テーマを設定し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。
a. テーマをよくとらえ見事に表現している b. テーマにふさわしい
c. テーマにふさわしいが今一步 d. テーマからややずれている
e. テーマにふさわしくない
イ. 制作技術点（5点）
審査の視点として
（1）制作の手法 （2）取材の方法や努力 （3）企画構成 （4）演出・編集
（5）技術（録音の技術、アナウンスやナレーションの技術、音楽・効果音など）
a. 特に優れている b. 優れている c. 普通である d. やや劣る e. はなはだしく劣る

【4】ビデオメッセージ部門（VM）

- 1.郷土の話題を全国の仲間伝える、自校オリジナルのビデオ作品とします。内容、手法は自由で、発表時間は4分30秒以内とします。
- 2.審査の視点と配点
テーマ点5点と、制作技術点5点に分けて配点し、合計10点満点とします。
ア. テーマ点（5点）
テーマを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。
a. テーマをよくとらえ見事に表現している。 b. テーマにふさわしい
c. テーマにふさわしいが今一步 d. テーマからややずれている
e. テーマにふさわしくない
イ. 制作技術点（5点）
次の5点を審査の視点とします。
（1）制作の手法（2）取材方法や努力 （3）企画構成 （4）演出・編集
（5）技術（録音・撮影、アナウンス・ナレーション、音楽・効果音など）
a. 特に優れている b. 優れている c. 普通である
d. やや劣る e. はなはだしく劣る

【5】テレビ番組フリー部門（TVF）

自由な発想で作られた、高校生らしい斬新な作品を評価します。発表時間は、**14分以内**とします。

1.審査の視点と配点

テーマ点5点と、制作技術点5点に分けて配点し、合計10点満点とする。

ア. テーマ点（5点）

テーマを設定し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。

- a. テーマをよくとらえ見事に表現している
- b. テーマにふさわしい
- c. テーマにふさわしいが今一歩
- d. テーマからややずれている
- e. テーマにふさわしくない

イ. 制作技術点（5点）

次の5点を審査の視点とします。

- (1) 制作の手法 (2) 取材方法や努力 (3) 企画構成 (4) 演出・編集
- (5) 技術（録音・撮影、アナウンス・ナレーション、音楽・効果音など）
- a. 特に優れている
- b. 優れている
- c. 普通である
- d. やや劣る
- e. はなはだしく劣る

【6】CM部門

自校をPRするオリジナルのTVCM作品とします。内容の自由な発想で作られた、高校生らしい斬新な作品を評価します。

発表時間は、**30秒**とします。

1.審査の視点と配点

テーマ点5点と、制作技術点5点に分けて配点し、合計10点満点とする。

ア. テーマ点（5点）

テーマを設定し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか。

- a. テーマをよくとらえ見事に表現している
- b. テーマにふさわしい
- c. テーマにふさわしいが今一歩
- d. テーマからややずれている
- e. テーマにふさわしくない

イ. 制作技術点（5点）

次の5点を審査の視点とします。

- (1) 制作の手法 (2) 取材方法や努力 (3) 企画構成 (4) 演出・編集
- (5) 技術（録音・撮影、アナウンス・ナレーション、音楽・効果音など）
- a. 特に優れている
- b. 優れている
- c. 普通である
- d. やや劣る
- e. はなはだしく劣る

**<予選>
アナウンス部門 発表原稿**

**A1 岡谷南 福井 梓心
笠原新太郎さんについて**

岡谷市の笠原書店が、今年、100周年を迎えました。岡谷南生なら一度は訪れたことがあると思います。三代目として店を守るのは、社長の笠原新太郎さんです。笠原さんは「人と人、人と物が会おう場所にしたい」と話しています。今、書店はインターネット販売の発達で、大きな影響を受けています。それでも笠原さんは、お客さんに店に来てもらう工夫を凝らします。本はもちろん、学生に人気の文房具や個人製作のクラフト作品コーナーを作ったり、毎月必ずイベントを行って、人気キャラクターを招いたりしています。対戦カードゲームのイベントでは、地元の小学生や高校生が訪れ、その場で交流が生まれていました。笠原さんは、「お客さんに新たな出会いを提供したい。書店に来たことが、人生を変えるきっかけになれば嬉しいね」と話します。笠原書店は、次の100年に向けて、本棚のすき間に、地域のつながりもそっと並べています。

**A2 上田 平林 実樹
ほかほかじまん焼きのまち**

上田市のまちなかに、ずっと変わらない人気のお店があります。富士アイスです。今年、創業90周年を迎えました。お店の名物はもちもちの生地にあんこやカスタードクリームがたっぷり入った「じまんやき」です。上田の人ならきっと一度は食べたことがある、そんな地元の味です。お店では焼き立てをお客さんに渡すことを大切にしています。店主の北川さんは「生地はこねてから二時間以内に焼き上げるようにしています。温かいうちに食べてもらいたいので、その調整が一番難しいですね。」と話します。「学生の頃から通っています」というお客さんの声を聞くと、北川さんは本当に嬉しそうです。思いのこもったじまんやきは今も沢山の人の愛されています。富士アイスは変わらぬ味で上田の街をあたたくつつみ続けて行きます。

**A3 松商学園 太田 勇真
みんなの笑顔の拠点**

松本市で地域に根ざしたカフェを営む女性があります。米倉千賀子さんです。米倉さんはインテリアショップに勤めていた頃から「自分の店を持ちたい」という大きな夢がありました。最初は金銭的な不安もあり中々踏み出せずにいた米倉さん。家族に支えられ7年前に、雑貨カフェ yonematu を開きました。カフェの他に、エプロンやコップなど、雑貨の販売をしています。最初はなかなか知名度がでず、苦労したそうです。SNSやグルメ雑誌などで宣伝したり、親戚にも紹介してもらい、少しずつお客さんを増やしていきました。その甲斐もあり、店内は話しながら食事をする人や、買い物を楽しむ人たちにぎわっており訪れる人たちの憩いの場となりました。米倉さんは、「お客さんから「美味しかった、また来たい」と言葉を貰う時が1番嬉しい。訪れた人が元気になって帰っていくような店。光の拠点のような店を目指しています。」と笑顔で話してくれました。人々の笑顔を生み出すカフェ yonematu。今日も地域を照らし続けています。

**A4 松本美須々ヶ丘 古川 政幸
改装工事について**

夏休み中も先生方は、お仕事をしています。しかし、その仕事場はなんと化学実験室。昨年の9月から本校では改修工事が行われており、その影響で研究室が使えなくなっていたのです。工事では、トイレの改築や廊下の床材・壁の修繕などが進められています。そのため先生方は、夏休み中は化学実験室に移動してお仕事をされています。移動した英語科の中村先生にお話を伺うと、「必要な資料をすぐに取り出せないのが大変ですね。いつもはすぐそこの棚にあるものが、今は別の場所にあるので大移動しないと確認できません」と移動による課題があることがわかりました。一方で、「気持ち切り替わって、新鮮な気分で過ごせました」という前向きな声もありました。先生方も待ち遠しい工事の終了は来年の3月を予定しています。完成後の、より快適な学校生活に期待が高まります。

**A5 上田染谷丘 高橋 七海
やまぼうし自然学校について**

「森でつながるいのちのわ」これを活動理念に掲げているのは、上田市菅平高原にあるNPO法人、やまぼうし自然学校です。森林の魅力を多くの人と共有して、きれいな森林を増やしたいという思いから発足しました。やまぼうしは森と人とのつながりを作るために、正しい知識をもつ指導者を養成しています。野外活動の安全管理や森林を使った新しい企画運営の研修などを行っていて、長野県だけでなく、首都圏からの受講もある活動です。指導者の高齢化が進んでいるため、若い指導者の養成が必要とされています。事務局長をしている保母裕美さんは、「今以上に環境が悪くならないようにするためにも、自然を知っている人が必要です」と話します。世の中が便利になるにつれ、私たちのすぐ近くにある森は遠い存在となりつつあります。皆さん、森とのつながりを作ってみませんか？

**A6 大町岳陽 平林 真宙
松川村の移住促進について**

昨年度、松川村の人口が、年間で64人増えました。これは実に4年ぶりの増加です。そして民間の雑誌の「2025年度版 住みたい田舎ベストランキング」では、1位となっています。この移住人気の背景には、松川村役場のある部署の存在があります。その名は「噂の田舎へ案内係」です。2020年に前身の部署から発展する形で誕生しました。主に、村の魅力発信や、移住の促進・サポートを業務として、4人で活動しています。その中に、都市部での移住相談会への参加があります。関東を中心に、移住を検討している人との対話を重ねています。案内係の村上さんは、「移住してくれる人だけではなく、村のファンも増やしていけるように活動しています」と話します。9月には、全国から集まった若者と、初めてのイベントを開きました。松川村の良さを考えるアイデア企画「マツカワソン」です。来年の人口は増えるのか、「噂の田舎へ案内係」の挑戦は続きます。

A7 松本県ケ丘 河西 真央

「寺子屋シアター」プロジェクトについて

「とにかく辰野町を知ってほしい！」そう語るのは「寺子屋シアター」プロジェクト実行委員会代表の垣内彰さんです。「寺子屋シアター」プロジェクトは「お寺の価値を見直すこと」「地域の文化事業を担える組織をつくること」「町の魅力を再発見できるような市民劇を作ること」の三つを目標に2019年に結成されました。これまで公演は全てお寺で行われてきましたが、「もっと多くの人に見てもらいたい」という思いから今年の公演は辰野町町民会館で行いました。垣内さんは「とにかく辰野町を好きになってもらいたい一心で活動を行っていました。毎日が大変でしたが、公演日の様子は素晴らしく、やって良かったと思いました」と語ります。今後は”表現”を学べる場を学校に作りたいと考えている垣内さん。これからの活躍に期待が高まります。

A8 上田西 飯塚 翔悟

みんなのかわせん交通

「おはよう」のどかな風景に朝の挨拶が交わされます。長野県上田市半過地区、この地域の子どもの通学時間は約1時間30分。道中には危険なトンネルもあり特に小学生には危険な通学路になっているため、子どもたちのためにかわせん交通が運営されています。地域のスクールバスが人手不足により2019年に廃止、臨時手段としてスクールタクシーも2022年で廃止されました。現在は自治会のボランティアが地域の小中学生の送迎をしています。かわせん交通です。川辺泉田まちづくり協議会のボランティア宮下さんは「かわせん交通を始めて交通事故の心配や遠くから来ていただくボランティアさんの手配が大変ですが、利用していただくお子さんや親御さんから感謝していただくことがいいことです」と、進学や就職のため、ふるさとを離れる子どもたちも多い中、子どもたちには「将来は上田市に帰ってきてもらいたい」という気持ちを胸に、これからも子どもたち、地域の未来のため子どもたちを安全に送り届けます。

A9 つくば開成学園 金尾 春奈

神道祭の担い手不足について

松本市の四柱神社で、今年も秋の神道祭が開かれました。3日間に渡る盛大なお祭りで、150年近い歴史があります。中でも18台の山車は圧巻で、大きいものは高さが6メートルにもなります。文化財にも指定されていて、18の地区、それぞれで管理しています。ところが近年、少子高齢化によって山車の担い手が少なくなっています。本来は、地区の小学生が乗って太鼓や笛を演奏し、大人や中高生が神社まで曳行していました。人手不足のため、今ではお祭りらしいお囃子もできません。伊勢町二丁目の高畠地区長は、「山車の美しさは私たちの自慢だし、祭りの誇りでもある。後継者が少ないのは残念」と肩を落とします。この現状を受けて、神道祭の山車の曳行は、10年ほど前から誰でも参加できるようになっています。町会によっては飛び入り参加もできるそうです。松本観光の最高の思い出になりそうですね。

A10 松本蟻ヶ崎 秦 彩音

わんわんパトロール隊について

「犬と一緒に歩く時間が、地域の安心につながればという想いで活動しています。」そう話すのは、松本市の楽都わんわんパトロール隊の代表、松林ひろこさんです。これは、犬の散歩を通して地域を見守るボランティア活動です。2019年に始まり、今では150匹もの犬と飼い主が登録しています。小学生や高齢者への声かけなども行ってきました。活動は松本市から近隣の安曇野市や塩尻市などに広がっています。この会の隊長はエアデール・テリアという大型犬の右近くんです。登下校中のこどもたちから「右近くん！」と声をかけられ、その姿が地域の安心と笑顔を育んでいます。松林さんは「犬がいることで、人と人との距離が自然と近づく」と話します。犬がいるから人が集まり、あいさつが生まれる。楽都わんわんパトロール隊の一步一步が、街の安心を支えています。

A11 長野 中山 千穂

善光寺縁起について

長野市の善光寺で、新しい試みが始まっています。寺の始まりや仏像の伝来の物語、「善光寺縁起」を歌として伝える事です。縁起とは、物事のつながりや始まりを意味する「縁起」です。これには、およそ二千五百年前、世界で最初に作られた仏像が旅をして、やがて善光寺に伝わった伝説が描かれています。仏教の言葉が多く、古い文体で少し難しい物語を、このほど、わかりやすい歌詞にしました。冒頭はこうです。「信州信濃の 善光寺さんの 縁起を語る 今より歌います 善光寺縁起の物語」古くから受け継がれてきた善光寺木遣り歌の節回しにのせて、語りかけるように物語が紡がれます。善光寺木遣り保存会の月原さんは、「地元に伝わる二つの文化を組み合わせる新しい形にし、多くの人に善光寺の心や歴史を伝えたい」と話しています。歌の制作は、現在も進められています。木遣りの歌声が、善光寺の心を未来へとつなぎます。

A12 南安曇農業 一柳 夏萌

微生物活用コースの研究について

微生物活用コースの研究が、国土交通大臣賞を受賞しました。表彰されたのは、汚泥を肥料に変える研究です。汚泥とは、下水処理の過程でできる微生物の塊です。窒素・リンなど植物の成長に不可欠な養分が含まれ、資源として注目されています。7年間の研究を経て、令和6年5月、安曇野の汚泥が「アクアピア1号」という名で肥料登録されました。肥料の価格が高騰する中、原料費が安く、安曇野の汚泥を安曇野で使えば輸送費もかからない、理想的な肥料です。しかし、産業廃棄物として扱われるため、肥料として使うには長野県の許可が必要です。現在、実用化を目指して、アクアピア1号を使った栽培実験を行っています。コース長の高取茉帆さんは「広報活動も頑張って、多くの人に汚泥肥料の良さを知ってもらいたい」と話します。肥料を含めた地産地消の小さな取り組みが、持続可能な農業へつながる。その一歩が、今南農から始まります。

A13 岡谷南 関 優花

江音寺の羅漢祭について

諏訪市にある江音寺は、江戸時代に建てられた歴史あるお寺です。この江音寺で、毎年8月の第3日曜日に開かれるのが「羅漢祭」です。150年以上続く伝統行事で、普段はお目にかかれない「十六観音」のご開帳が行われています。江音寺の十六観音は本堂に安置されており、江戸時代の終わりに祀られた貴重な仏像群だそうです。十六観音とは、人生の旅路を見守る十六体の観音さまのことです。それぞれが、怒りや悲しみ、迷いといった人の心を映し出しています。その表情を見つめることで、心が癒され、自分を見つめ直すきっかけを得られるそうです。羅漢祭に45年関わってきた関岳子さんは、「羅漢祭は、江戸時代から代々繋いできた。この伝統を守るために、これからも祭りを通して、若い人や大人も力を合わせてこの土地を盛り上げていきたい。」と語ります。十六観音は、その時の自分を映し出すといまれています。似ている観音様に出会えたら、心が晴れるかもしれません。

A14 大町岳陽 吉田 心優

OYAKI 9について

大町市の八坂中学校で、郷土料理の「おやき」が研究されています。食べることが大好きな、1年生から3年生の9人が集まりました。その名も、OYAKI 9です。「総合的な探究の時間」で、大町になじみ深い「灰焼きおやき」を作りたいと始まりました。農家のおばあちゃん達を学校に招いて、作り方を学びます。そのあとは、自分達で具や生地を改良を重ねました。家から具材を持ち寄っての実験です。最近では、なす味噌やさつまいも、キーマカレーといった少し珍しいおやきが誕生したそうです。代表の3年生、新渡戸知宏さんは、「意外とキーマカレーが美味しくてびっくりした。県外の人や国外の人にも食べてもらいたい」と話してくれました。作ったおやきは、毎年8月に開かれる大町マルシェで販売しています。これからも OYAKI 9 は、世界に一つだけのおやきを皆さんにお届けします。

A15 松本美須々ヶ丘 斉藤 大輝

演劇部について

長野県初の快挙です。今年7月、香川県高松市で開かれた第49回全国高等学校総合文化祭に本校の演劇部が出場しました。全国大会への出場は約7年ぶりだそうです。全国約2,000校の中から選ばれた12校が争ったこの大会で、本校の演劇部は、長野県勢としては初の最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞したのです。この賞は全国1位に相当し、各方面からお祝いの言葉が寄せられました。また今年9月には長野県知事への表敬訪問を行い、輝かしい結果の報告をしました。当時の部長、3年生の吉澤美杜さんは「全国大会までの数々の公演を通して自信はついていました。緊張しながらも、一番青春した舞台だった。」と語りました。この大会をもって3年生は引退し2年生が主力となる新体制になります。演劇部の今後の活躍に期待です。

A16 上田 工藤 希愛

上田電鉄別所線について

上田電鉄別所線は、上田駅から別所温泉駅を結んでいます。全国でも珍しい温泉街へ向かう鉄道です。子どもからお年寄りまで多くの人に親しまれています。運転手の木戸郁太郎さんも「地域のお客様との関わりを大切にしている」と話します。そんな地域に愛されてきた別所線ですが、かつて存続の危機に陥ったことがありました。2019年。台風19号による川の増水で、別所線のシンボルである赤い橋が落ちてしまったのです。それでも、「別所線を残したい」という地域の声に支えられ、一年以上をかけて復興しました。木戸さんは「別所線が地域にとってなくてはならない存在だということを再認識できた」と話します。今も乗客が少ない日がありますが、「一区間だけでもいいから乗ってみてほしい」と呼びかけています。四季折々の山と美しい田園風景のなかを走る別所線。みなさんも、地域の思いがこめられたこの鉄道に乗ってみませんか。

A17 松本蟻ヶ崎 竹内 善輝

松本城の動画サイト、天下を取る

松本城の SNS が全国の城の中で日本一になりました。このたび、日本一になった松本城の SNS は2021年の5月に開設されました。市役所の職員が、毎日季節ごとの風景や城内での様子、動植物などを松本城とともに写真や動画で紹介してきました。今年10月、松本城の SNS のフォロワーが4,5万人になり、全国の城の中でそれまで最も多かった熊本城を抜いて全国一位になりました。全国一位になった要因を傘木文仁さんは「場内の動植物や風景の変化など、職員にしか気付かないような景色を伝えるように工夫しました。」また、「一番は毎日の投稿を忘れずに続け魅力を伝え続けることが大事だと思います。」と話します。松本城の魅力を発信する動画は再生回数一位を独占しています。これを機に「松本城」で検索してみてください。

A18 松商学園 三枝 悠歌

まごころで繋がる食卓

松本市岡田で開かれている交流会「まごころキッチン」。「みんなで楽しく」をテーマに月に2回開かれています。7年前、「地域の交流が少ない」という声を受け当時地区会長の小林さんが提案し、始まりました。参加者は一緒に手作りの昼食を囲み、会話をします。しかし7年間活動が続けてきましたが参加者はなかなか増えません。特に若い世代の参加者がおらず、「入りづらい雰囲気がある」と厳しい意見もあるそうです。それでも、少しでも多くの人が気軽に参加できるよう、扉を開けたり、看板をたてるなどして工夫を凝らしています。小林さんは「参加している人数は少ないが、気軽に話せる場所、心の居場所になって欲しい」と話していました。今後の課題は、若い世代の参加。地域のつながりを広げるため、「まごころキッチン」は今日も開かれています。

A19 松本蟻ヶ崎 降旗 剛大

夢のゴジラ像

松本市庄内公民館ゆめひろばにゴジラが出現しました。全長は3.5メートル、背鰭が発光し、今にも動き出しそうです。このゴジラは、地域の三十人ほどの遊び心のある大人たちのグループ、「庄内盛々会」が製作した巨大オブジェです。市からの支援を受けながら、半年以上かけてゴジラ像を完成させました。盛々会会長の大嶋健二さんはゴジラ像製作のきっかけを「松本出身の山崎監督がゴジラ映画でアカデミー賞を受賞できたように、子供たちにも夢は叶うことを知ってほしかった」と語ります。また作業について「肌に使う大量の紙粘土は糊や新聞紙を墨汁と混ぜ、一から作ったので大変でした」と振り返ります。さらに「組み立ての作業は難しかったが、最後まで完成できたのはみんなのおかげ」と話してくれました。ゆめひろばに立つそのゴジラ像は、凜として地域の人や子供たちに夢を与え続けています。

A20 松本美須ヶケ丘 川上 翔琉

農家の一憲さんについて

「果樹園の面積を減らそうか。」そう語るのは農家である一憲さんです。一憲さんはりんごや、梨を中心に果樹栽培を行っています。ところが近年日焼けによる変色、虫の大量発生など今まで起こることがなかったことが今ではよく起こり、農家を悩ませています。これに対して一憲さんは日焼けや害虫対策としてこれまで行わなかった遮光ネットを張ったり消毒を行う回数を増やしたりと工夫を行い例年通りの美味しい果物をつくっています。ですが一憲さんは今年で71歳。年々作業の効率が落ちてきており手間が増えることが問題になってきています。これに対し一憲さんは果樹園の面積を減らすことも検討しています。このように農家は今、気候変動や高齢化など避けられない問題に直面しています。この影響はいつか私達の食卓に影響があるのかもしれませんが。いつも通りの食卓を囲むため、私達にできることはあるのでしょうか。

A21 岡谷南 中緒 涼太

小西満さんについて

諏訪大社の春宮から、京都弁が聞こえてきます。84歳のボランティアガイド、小西満さんです。土曜の午後に、春宮で観光案内をしています。小西さんは、故郷の京都でも10年以上ガイドをしていました。下諏訪には15年ほど前に移住しています。ガイドといっても、足の悪い小西さんは歩いて案内をしません。神楽殿の石段に毛布を敷いて、2時間だけの案内人です。境内に立つ御柱を指しながら、「そやね、7年に一度、そらもう命がけですねえ。木が動いたら誰も止められまへん」と、御柱が最も盛り上がる木落しの説明をします。その穏やかな語り口に寄せられて、何度も質問に訪れる観光客もいるそうです。小西さんは「満足して帰ってもらうのが1番嬉しい。元気な限りは続けたいですねえ」と話しています。今週の土曜日も、下諏訪で京都の風を感じる優しい声が聞こえてきます。

A22 上田 斎藤 璃音

Kasapon プロジェクトについて

夏の陽ざしが、校庭をまぶしく照らしています。その光の下で、上田高校の生徒たちが、新しい挑戦を始めました。その名も「Kasapon（カサポン）プロジェクト」です。上田を訪れる観光客の方々に、日傘を貸し出す取り組みです。きっかけとなったのは、雨の多い金沢市で行われた置き傘の貸し出し活動でした。上田市は、晴れの日が多い町です。強い日差しの中でも快適に過ごしてもらおうと、使われなくなった傘をリメイクしました。そして、その傘を観光案内所に置いたのです。さらに、商店街で使えるクーポンも添え、訪れた人が、上田のあたたかさを感じられるよう工夫しました。プロジェクトのメンバーである神官由奈さんは「日傘を通して、人と人とのつながりが生まれたらうれしいです」と話します。Kasaponの日傘には、そんな生徒たちの思いや、未来への願いが込められています。上田の青空の下、どうぞ、Kasaponの日傘で、笑顔のひとときをお過ごしください。

A23 松本美須ヶケ丘 小澤 怜菜

泣き相撲について

赤ちゃんの元気な泣き声が聞こえてきます。長野県護国神社では、毎年恒例の泣き相撲が行われました。泣き相撲とは、生後6ヶ月から1歳6ヶ月の赤ちゃんが参加し、健やかな成長を祈願する日本の伝統行事です。ルールは、先に泣いた方が勝ち。ですが、勝敗よりも赤ちゃんの泣き声によって邪鬼を祓い、吉を呼ぶことが目的となります。このイベントには、主催の護国神社だけでなく、病院や郵便局など、たくさんの企業や団体が協力。会場では、産後のお母さんに向けた体のケアや、子ども達が遊べるブースを展開しているため、家族全員で楽しめる空間になっています。禰宜の奥谷さんは「全国で行っている所が少ないので、長野県でも開催することで行っている所が少ないので、長野県でも開催することで行っている所が少ないので、長野県でも開催することで行っている所が少ないので」と話します。生命力の証しとされる赤ちゃんの泣き声。神聖で、かけがえのない宝を、地域全体で守り続けます。

A24 松本蟻ヶ崎 増澤 ひなた

保護猫活動について

ねこカフェもふもふの猫達は今日も幸せに暮らしています。経営するのは松本市の動物愛護団体もふもふ堂の竹内満美子さんです。もともと満美子さんは保健所で働いていました。譲渡会がなく殺処分されていく猫達をみて「このままではいけない」と感じ、個人で活動を始めました。2014年には譲渡などを通して殺処分0を目指すもふもふ堂を立ち上げました。もふもふ堂では「猫たちが不幸にならないように、不幸せな生き方をしないように」と目標を立てています。目標達成のため、満美子さんたちは各地で譲渡会を開いています。満美子さんは「猫が今よりもいい環境に置かれるように譲渡先には厳しい条件を課している」と話します。もふもふ堂は保護猫達の少しでも幸せな未来を願い、活動を続けています。1人の勇気ある行動がたくさんの小さな命を救い、そしてこれからも救い続けていきます。

A25 岡谷南 平出 真翔

結び家ふわりについて

放課後の放送室に30個のおにぎりが届きました。届けてくださったのは、上諏訪駅前のおにぎり専門店、結び家ふわりです。去年3月にオープンして、今年から南高の購買でも販売しています。鮭やおかかの定番から、エビマヨやからあげといった変わり種まで、16種類が並んでいます。のりで包んだ三角形の頭に、たっぷりの具材が見えています。長野県産のお米を使って1つ150グラムとボリューム満点ですが、高校生にも優しい150円を守っています。代表の大門光さんは、「米の価格高騰で仕入れ値が3倍以上になっていて正直大変。でも、日本人が大好きなお米を、若い人たちにたくさん食べてもらいたい」と頑張っているそうです。放送部員からは「冷めても美味しくてびっくりした」と好評です。諏訪郡内なら、おにぎり一個でも無料配達しています。結び家ふわりのおにぎりは、米と私たちを、優しく結んでいます。

A26 松本蟻ヶ崎 小岩井 萌南

寺子屋について

塩尻市の常光寺が子供たちの居場所になっています。このお寺の上條美穂さんは、今年7月、夏休み中の子供たちの居場所を作るため、自身の教員経験を活かし、「夏の寺子屋」を開きました。始めは誰も来ないのではないかと不安もありましたが、14人の子供たちが集まり、笑顔で活動に参加してくれました。そんな子供たちからの続けてほしいという声に答えて、夏休みが終了した今も、毎週水曜日に寺子屋を開き、活動を続けています。上條さんは「ここは学校とも塾とも違う場所。だからこそ無償で活動を続けたい。こちらの教えたことを教えるのではなく、子供たちが自由に過ごせる場所でありたい。」と話します。実際に通う小学生からは「お寺は静かで集中できる。もっと色々な地域の人に知ってもらいたい。」と評判です。寺子屋は子供たちの居場所として、地域に支えられながらこれからも続いていきます。

A27 松本美須々ヶ丘 奥原 みお

林米子さんについて

多種多様な花が咲いている花壇が目印の美容室ジョイ。林米さんは、この美容室の店主です。お店の名前の由来は、楽しいや嬉しいという意味を持つジョイフル。お店を開いた時は2年近く来客がなく、もうダメだと何度も思ったそうです。その時、市内を配達で回っていたラーメン屋の店主が「みんなに宣伝して回るよ」と言って助けてくれたそうです。これを機に客足は伸び、忙しい時期では近くの飲み通りで働く芸者さん達の髪を毎日結い、花嫁の髪型のセットから白無垢の着付けまでこなしていたそうです。現在、米さんがここまで続けられたのは、「お客さん、今までお世話になった人、全員への感謝があるから。そしてなにより私自身が美容師という職に惚れてしまったから。だから一生懸命頑張れた。」と話します。お店の前の花に負けないうくらい、お客さんの笑顔を咲かせる米子さん。これからも街の中で一番楽しい美容室を目指して、美容室ジョイは今日もお客さんを迎え入れます。

A28 松本蟻ヶ崎 堀内 壱斗

蟻高書道部、中国への訪問について

デジタル化が進む、書道発祥の地中国。蟻高書道部は中国への訪問を通じて書道文化を守ることの大切さを強く感じました。蟻高書道部はこれまでの活躍を認められ、9月22日から「長野県高校生文化訪中団」として中国に招かれました。訪中団は河北省の石家荘市を訪れ、現地の高校生と互いの文化について交流しました。ここで、蟻高書道部は書道パフォーマンスインエキスポで優勝したパフォーマンスを披露し、大好評を得ました。書道部の織田花香さんは「中国に来たのは初めてで、最初は不安がたくさんあったが、中国の方々が優しく迎え入れてくれて印象が大きく変わった。」と話します。また「言葉の壁があっても、作品に込めた想いは伝わるということを感じた。」とも話してくれました。6日間の中国への旅は書の魅力をあらためて知る貴重な経験となりました。

A29 岡谷南 井原 有優

平和への願いについて

「三度許すまじ原爆を」。8月、岡谷東部中学2年生の井原啓仁さんは、この言葉に出会いました。原爆を絶対に使わせないという、強い決意の言葉です。平和学習で戦争の悲惨さを知った井原さんは、被爆者の方に直接話を聞きたいと思うようになりました。そして、夏休みの広島研修に参加したのです。広島では、平和記念式典に参加し、被爆した2人の方に話を聞きました。あの時は、何が起こったのか全くわからず、一瞬の出来事だったそうです。そして「三度許すまじ原爆を」という教訓を語ってくださいました。井原さんは、「ひとつの原爆で多くの人が亡くなり、夢や希望が奪われる怖さを知りました。今の当たり前の生活も、平和だからこそ送れていると気付いた」と話しています。三度同じ悲劇を繰り返さないために。広島から岡谷へ、非核の願いが、中学生に伝わっています。

A30 松本美須々ヶ丘 才竹 あやな

デリシアについて

長野県民なら一度は行ったことがあるスーパーのデリシア。「地域に密着した食品スーパー」をキャッチフレーズに県内62店舗を展開しています。「地域に密着」という言葉の通り食材の販売だけではなく、地域行事や子ども食堂への提供、雪かきやゴミ拾いなどにも参加しており地域と積極的に関わっているのが特徴的です。ですが土日出勤の多さや従業員の高齢化などから店員一人一人の負担が大きくなっているという課題があります。そのためスタッフ募集の呼び掛けを強化していくと同時に働きやすい環境作りを大切に行っています。デリシアはちが店の店長は「高齢化が進んでいる地域のため宅配などのサービスも行いたい。これからも地域に優しいスーパーにしていきたい。」と話します。心の拠り所になっているスーパーにみなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか？

A31 岡谷南 松田 璃子

八幡郊処について

岩波書店刊行、夏目漱石の名作小説、『行人』。表紙には、ひときわ目を引く赤い印章が刻まれています。この印を作ったのは、およそ 100 年前に活躍した篆刻家、八幡郊処です。篆刻は、漢字を彫り、「印章」、いわゆる

“ハンコ”を作る伝統芸術です。郊処の作品は、あの夏目漱石も愛用する逸品でした。その魅力の源は、信州の風土にあります。自然の材料を愛し、木や竹を好んで使いました。また、作品を納める額には、鯉のモチーフが多くあります。海がないからこそ、縁起が良い川魚の鯉を選んだのです。子孫でもあり、郊処の研究をする岡谷市の八幡智子さんは、「郊処は、細かく細い線を残す彫り方が特徴。そこに信州人としての素朴さや繊細さを感じます」と話しています。八幡郊処が残した印には、信州への愛が滲んでいます。

＜予選＞
朗読部門 発表原稿

R1 松本蟻ヶ崎 丸澤 璃一
神様のカルテ 夏川草介

我らは三人こぞって路上に出た。夜明けの町はまだ静かだ。朝霧がけぶって、道のかなたは茫洋として見えない。車道に停まる白いラパンが、霧の中で心細げに佇んでいる。「いつでも帰って参れ。」野菊の間”は必ず空けておく！」私が叫んだ。大家さんの許可はとっていない。だが知ったことか。もとより貸家の壁を桜で埋め尽くしたのだ。今さらなにを恐れることがある。車に乗り込む直前、学士殿が我らを見た。泣いていた。男泣きに泣いていた。こんなにぼろぼろに泣く学士殿を見たのは初めてだった。「……必ず……」嗚咽にまみれた声が、早朝の路上に途切れた。ふわりと白いものが落ちてきた。雪だ！「雪だ！」男爵が叫んだ。「見ろ、空までお前を祝福している。桜と雪の門出だぞ！」もうわけのわからなくなった男爵が、顔をぐしゃぐしゃにして叫んだ。学士殿が車に乗り込み、エンジンがかかった。わずかに姉君が頭を下げたように見えた。

R2 松本美須々ヶ丘 亀川 昊
雨降る森の犬 馳星周

ワルテルが唸った。牙を剥いた。こんなことで泣くなど雨音を叱っている。「そんな怖い顔したってだめ。やなものはやだ。逝かないで、お願い」ワルテルがまた唸った。雨音は唇を噛んだ。最後まで、ワルテルにはかなわないのだ。当たり前だ。人間は迷い、惑う。でも、犬は真っ直ぐだ。これが得だとか損だとか、そんなことは思いもしない。純粋に生き、純粋に仲間を愛する。だから、間違わない。「最後まで我が儘言ってごめん」雨音は言葉を絞り出した。ワルテルが目を閉じた。胸が大きく膨らんだ。そして、ワルテルは息を吐き出した。それっきり、動かなくなった。「ワルテル」道夫がワルテルの毛に顔を埋めて泣きじゃくりはじめた。雨音もワルテルに手を伸ばした。道夫と同じようにワルテルの毛に顔を埋めた。泣いた。道夫とふたりで子供のように泣いた。泣いている間にも、ワルテルの体が少しずつ冷たくなっていくのがわかった。それが悲しくて、さらに泣いた。人間ってのはしょうがないなあ——魂になったワルテルが苦笑しているような気がした。

R3 岡谷南 谷 陽斗
言の葉の庭 新海誠

閉め切られた校長室には、クーラーのかすかな唸りと、昼休みの生徒たちの喧騒だけが小さく届いている。俺と百香里、テーブルを挟んで教頭と校長が、それぞれ並んで応接用の黒いソファに座っている。校長は先ほどから無関係のような顔をしてお茶をすすっている。教頭だけが喋り続けている。「ぼくはね、雪野先生。もうちょっと若かったら学校なんてすっぱり辞めて、塾でも開きたかった。理不尽な場所に居続ける理由なんて、本当は生徒にも教師にもないんです。でも辞めるには、ぼくはすこし歳を取りすぎてしまった。」分かりにくい冗談なのかと思ったが、どうも教頭は本気で喋っているようだ。完全に共感できるわけではないけれど、率直すぎる物言いにすこし胸が熱くなる。「きみからの辞表は、残念だけど受け取らなければなりません。でも本当は、ぼくはきみのことがすこし羨ましい。」教頭はそう言い終えてから、うながすように校長に視線を送る。校長はテーブルに置かれた退職願を手に取り、「今までお疲れさまでした、雪野先生。」とあっさりとした調子で言う。「多大なご迷惑をおかけし、本当に申し訳ありませんで

した。二年半、本当にお世話になりました」凜とした声でそう言って、百香里は深く頭を下げた。

R4 長野吉田 池田 柚芽
生きる僕ら 原田マハ

しゃもじの先をそっと入れて、少しだけかき混ぜる。とたんに、ご飯の甘い香りが立ち上る。しゃもじにほんのひと口、ご飯を載せると、ばあちゃんは微笑んで、言った。「ほら、お上がりなさい。あなたが作ったお米よ」人生は、湯気を立てて輝くご飯を、じっとみつめた。それから、熱々のご飯を指先ですくい取ると、もう一度みつめ、口の中に入れてた。・・・・・・・・・・・・・・・・・・。「・・・・・・・・うまい」ひと言、言った。あとは、言葉にならなかった。なんだか、涙がこみ上げてしまって。凍れる冬。水温む春。灼熱の夏。豊穡の秋。巡る季節。草木のそよぎ。花々の目覚め。小鳥のさえずり、虫たちのうごめき。おおらかにたたずむ八ヶ岳の峰々。美しい場所。ふるさと、蓼科。命の味がした。自然と人々との、命の味が。

R5 松商学園 高木 瑛汰
ほしのこえ 新海誠

また6年分古びてしまって、ほとんど廃屋同然ではあったけれど。誰もいない通りを、涼しげに風が吹き渡った。道端に咲くタンポポの綿毛が、風に煽られ大空へ飛び散っていった。小屋の前でおもむろに覗き込むと、長峰がベンチで待っていた。ワンピースにつば広の帽子、初夏を思わせるいでたちで、白い腕が目まぶしかった。剣道着でもない、ジャージでもない、制服でもない、私服姿の長峰を見るのは、はじめてだった。間違えるほど、大人びて見えた。「どこ、行こう？」「コンビニ行って、アイス食べたい」わざと子どもっぽいう調で長峰はいった。「中学のおさらい？」「きょう一日はね。それからあしたは、高校生コース・・・」立ち上がると長峰は、スカートの裾を直した。「二十四歳のノボルくんに追いつくのに、時間が欲しいよ」小屋を出て、長峰は歩き出した。時間が欲しいのは、ぼくのほうだった。十九歳の長峰に追いつこうと、ぼくは後を追った。

R6 長野西 山崎 貴弘
火星の話 小嶋陽太郎

高校を南に下りていくと赤い屋根の幼稚園があり、向かいに公園がある。遊具もあるし、わりと大きいグラウンドも併設されているので、休日には子供たちが遊んでいる。自販機でお茶を買い、端っこにあるベンチに座った。ややすっきりした頭で周りを見回していたら、グラウンドの真ん中に人影を発見した。うちの高校の制服を着ている。まさかね、と声に出して言う。僕の視線の先にいる人物は、手を筒状にして顔に当て、空を見上げていた。佐伯さんだった。「また会った……」周囲を確認する。誰もいない。広いグラウンドのちょうど真ん中で空を見上げる姿は、空から降りてきたばかりの宇宙人が、いましがた自分を地上に降ろした宇宙船を見送っているみたいに見えた。さきほど買ったペットボトルのお茶が手の中で温くなっていくのもかまわず、僕は遠くの佐伯さんに見とれた。僕のことにまったく気がついていないようで、たまに角度を微調整するかのように首の傾き加減を変えている。漠然と空を見ているのではなく、何か明確な目標物があって、それを探して空を見上げているのには容易に想像できる。不意に佐伯さんが手を下ろしてこちらを向いた。見つかった。なぜかその瞬間、そんなふうに思った。

R7 屋代 野口 知華

サイレント 黙認 神津凜子

この機を逃すまいと星也はにじり寄る。腹筋を使い両足を持ち上げる。そして、勝人の胸目がけて振り下ろした。勢いをつけた足が何者かに捉えられる。星也は、目を回している様子の勝人から自分の足へと目を移した。そして、そばに立ち、足を掴んでいるのは矢羽田寿子に違いないと確信を持って見上げた。だが、それは――。勝人の父、矢羽田浩司だった。眉を八の字に下げた浩司は、汚いものでも投げ捨てるように星也の足を放ると手のひらについた土を払った。星也は呆然として浩司を見上げた。「勝人……」膝を折った浩司は呼びかけながら介抱を始めた。抱き起こされた勝人は父親の腕の中で目をしばたき、頭突きのせいで腫れ上がり始めている右脛に手をやった。痛みに声をもらすと、父親の腕から離れた。「父さん」よろよろと立ち上がる人を追い越すスピードで浩司は膝を伸ばした。状況を把握しようというのか、浩司は星也を見た後、倒れたまま動かない葉月に目をやった。その時、ようやく星也の思考が働き出した。「助けてください」星也は言った。

R8 松本県ケ丘 田上 玄人

小説 君の名は。 新海誠

ちょっと歩こうよという先輩に付き合っ、俺たちは新宿通りを大学生の波に逆らって歩き出した。紀尾井町を横切り、弁慶橋を渡った。街路樹が色づいていることに、俺は初めて気づく。すれ違う人々は半分くらいが薄手のコートや羽織っている。奥寺先輩も、アッシュグレイのゆったりとしたコートをまとっていた。「今日はどうしたんですか、急にメールなんて」俺だけ季節に乗り遅れてるなど思いながら、隣を歩く先輩に訊く。「なによ」グロスの唇を先輩は尖らせる。「用がなくちゃ連絡しちやいけないの?」「いやいやいや!」俺は慌てて手を振る。「久しぶりに私に会えて嬉しいでしょう?」「あ、はい、嬉しいっす」俺の返事に満足そうな笑顔を見せて、先輩は言う。「仕事でこっちまで来たから、ちょっと瀧くんの顔でも見ておこうと思ってね」大手アパレルチェーンに勤める先輩は、今は千葉にある支店で働いているそうだ。郊外の生活もなかなか楽しいけれど、やっぱり東京はにぎやかで特別だねと、なんだかしそうに周囲を眺めながら先輩は話す。

R9 上田染谷丘 小林 夏光

方舟 夕木春央

「誰にも愛されない人って、誰のこと?麻衣?僕?」「どうかな。分かんない」「でも、麻衣は結婚したよね。僕と違って」「してないのと同じだって。そういう話を、何回も聞いてもらってるでしょ」麻衣は、僕にしなだれかかる。「――終一くんは、矢崎さんが死んでしまえばいいって思えなかったんだね」「僕だけじゃないよ。麻衣もそう」彼女は静かに笑った。間近に見る麻衣の顔は、もちろん化粧はしていない。肌も荒れている。それには、風雪にさらされた石像のような美しさがあった。着替えをしておらず、体を洗っていないから、僕も麻衣も体臭がひどかった。それが分かるくらいに顔を寄せ合っ、互いに苦笑いをする。乾燥してひび割れた麻衣の唇に、僕はキスをした。それはほんの数秒だった。やがて彼女は、恥ずかしいことを告白するような声で呟いた。「私、生きて帰りたいな。どうしても」「―― そうだね」陶酔が薄れていくのには時間がかかった。

R10 エクセラン 松岡莉奈

風立ちぬ 堀辰雄

「お前、家へ帰りたいのだろう?」私はついと心に浮んだ最初の言葉を思わずも口に出した。そのあとですぐ私は不安そうに節子の目を求めた。彼女は殆どすげないような目つきで私を見つめ返していたが、急にその目を反らせながら、「ええ、なんだか帰りたくなっちゃったわ」と聞えるか聞えない位な、かすれた声で言った。私は唇を噛んだまま、目立たないようにベッドの側を離れて、窓ぎわの方へ歩み寄った。私の背後で彼女が少し顫え声で言った。「御免なさいね。……だけど、いま一寸の間だけだわ。……こんな気持ち、じきに直るわ……」私は窓のところに両手を組んだまま、言葉もなく立っていた。山々の麓にはもう暗が塊まっていた。しかし山頂にはまだ幽かに光が漂っていた。突然咽をしめつけられるような恐怖が私を襲ってきた。

R11 穂高商業 加藤 琉夏

強力伝 新田次郎

すべてが緻密に作り上げられた、複雑多岐な様相をした峰々が屏風のように前に立ちはだかっている。その麓にほんのちよっぴり開けた水田に寄り集まった虫のように部落の隅々にまで古い因習と封建と土地への執着から一歩も、もちろん、一躍もしたくない人々、それは小宮の生まれた足柄山の村と同じであると考えられた。足柄山よりはるかに偉大な美に習慣的に圧倒し尽くされて来ている、先祖伝来の環境への反逆が鹿野にあんな真似をさせたのであろうか。忘れよう――小宮は眼をつむってさっきの白馬連邦をもう一度思い起こした。右から白馬連峰、杓子、槍ヶ岳、続く天狗尾根、不帰岳…。すべてが老化した山の美。その一つ一つの峰にも雪を残す山峡にも、かつて富士山の単調な大きな円錐体の土の塊のどこにも発見できないものがある。不可解な程、深い谷、なぜあれ程薄気味悪く碧青に流れる水、水にも草にも小宮の知らない自然の謎が全部集まって隠されているような気がした。「だから信州人はつき合いにくいのだ」

R12 上田 林 綾乃

グランパのバケットリスト 岡沼美樹恵

私ね、自分のパパが誰なのか知らないんです。私のママは結婚しないで私を産んだし、パパのことは話したがいなかったから、私はママの方の血筋しか知らないの。いつも仕事でいないママに代わって私を育ててくれたグランパが死んじやって、とにかく悲しくて。グランパのバケットリストを見つけたときに、グランパがしたかったことを私が代わりにしてみたら、喜んでくれるかもしれないって思っ。それに、グランパの訪ねたかった場所に興味がわいて、この上田に来ました。そうしたら、もしかしたら家族が見つかるかも、っていう話にまでなっ。結局、曾おじいちゃんの家は見つけられなかったし、私の家族は見つからなかったけど。見ず知らずの私にこんなに優しくしてくれる人たちがいて、グランパの優しさは、この土地で生まれ育った曾おじいちゃんから受け継いでるんだってわかった。グランパも、私も、人と自然が美しい上田にルーツがあっ、幸せ。本当に、本当に、ここに来てよかった。ありがと」「ちよっ！コルビーちゃん！家族が見つからなかったなんて、何言っんだよ！もうあんたは私たちの家族だよ。こうやって、家でご飯一緒に食べて、くだらない話して笑いあえたら、もう家族なんだよ。だから、いつでも帰っおいで。ね?」リエの母親が目を潤ませながらそう告げると、リエの父親は「おう、そうだ。もうコルビーちゃんは俺の娘だ。うちは本当に女だらけの家だな」と言っ豪快に笑った。

R13 長野 清水 ひかる

疾風 Rond 東野 圭吾

スキー場のコース外、密集した木の間を見事なテクニックで滑り抜けていく千晶の姿が臉に蘇った。柗津はスキー技術を駆使したが、追いつけそうになかった。彼女がタヌキをよけようとして転倒しなければ逃げられていただろう。捕まえて、説教した。それが彼女との出会いだった。千晶が泊まっている宿の近くまで来た。じゃあここで、と彼女がいった。「ああ、おやすみ」「うん。柗津さん、あのさ……」千晶は唇を舐めた。「次の大会でだめだったら、もう見切りをつけるかも」「ふうん……」柗津は、どう応じるべきか少し考えてから答えた。「まあ、それもいいんじゃないか」千晶は神秘的な顔をしてから、表情を和ませた。「そうになったら、本格的にデートしようね」柗津も笑った。「考えておくよ」「じゃあ、おやすみ。また明日、ゲレンデで会えたらよろしく」「おやすみ」千晶が宿に入るのを見届け、柗津は歩きだした。ピッピ、かー。不意に、今日注意したスキーヤーのことが頭に浮かんできた。

R14 上田西 望月 木華

風立ちぬ 堀辰雄

サナトリウムに着いた翌朝、自分の個室で私が目を醒ますと、小さな窓枠の中に、藍青色に晴れ切った空と、それからいくつもの真っ白い鶏冠のような山嶺が、そこにまるで大気からひょっくり生れでもしたような思いがけなさで、殆ど目ながいに見られた。そして寝たままだは見られないバルコンや屋根の上に積った雪からは、急に春めいた日の光を浴びながら、絶えず水蒸気が立っているらしかった。すこし寝過したくらいの私は、急いで飛び起きて、隣りの病室へ入って行った。節子は、すでに目を醒ましていて、毛布にくるまりながら、ほてったような顔をしていた。「お早う」私も同じように、顔がほてり出すのを感じながら、気軽そうに言った。「よく寝られた？」「ええ」彼女は私にうなづいて見せた。「ゆうべ睡眠剤を飲んだの。なんだか頭がすこし痛いわ」私はそんなことになんか構っていられないと云った風に、元気よく窓も、それからバルコンに通じる硝子扉も、すっきり開け放した。まぶしくって、一時は何も見られない位だったが、そのうちそれに目がだんだん馴れてくると、ゆくに埋れたバルコンからにも、屋根から、野原からも、木からさえも、軽い水蒸気の立っているのが見え出した。「それにとても可笑しい夢を見たの。あのね……」

R15 上田染谷丘 荻原 帆南

生きるぼくら 原田マハ

あれは、夏。風に揺らめく緑の木々、凜とした白樺の木立に囲まれて、親子三人、湖のほとりにたたずんでいた。父と、母と、自分と、並んで写真を撮った。シャッターを押してくれたのは、ばあちゃん。みんな、笑っていた。何がそんなに楽しかったのかわからない。でも、とにかく、あの輝く夏の日、みんな笑顔だった。「みしゃか……池？」ふいに、言葉が口をついて出た。人生と並んで立っていたばあちゃんが、「そうよ」とすぐに反応した。「御射鹿池。よく知ってるのね」「ほんと。あたし、何度教えてもらっても覚えられないのに」つばみが感心して言った。人生は、頭を搔いて照れ笑いした。「教えてくれたんだよ、ばあちゃんが。ずっと昔、おれが子供の頃に」「私が？」ばあちゃんは、意外そうな声で言った。「そうだったの。私が、あなたに……」やっぱり覚えていないんだな、と人生は、わかっているけれども残念な気持ちになった。

R16 松本美須々ヶ丘 小林 健人

勿忘草の咲く町で 夏川草介

「研修医が終わったら、美琴を迎えに来ようと思って。待っていてほしい」「了解!」返答とほとんど同時に美琴は、ぱっと飛び出して桂の胸に飛び込んだ。驚いて抱きとめる桂の胸元に紅潮した美琴の頬がある。今度は桂が戸惑う番だ。「了解って…、意味わかってる?」「わかってるわ。1年くらい待っててあげる。でも、それ以上は保証しないからね」次の瞬間には、何か言いかけた桂の唇を美琴のそれがふさいでいた。ひとつひとつが突然で、予測を超えて、しかも本当に魅力的だと、桂は素直に認めるしかない。わずかの時間を置いて離れた唇から、直ぐに次の言葉が飛び出てきた。「忘れないでよ。勿忘草が保証人」「勿忘草の方が困るよ、きっと」「困ってるのは私の方でしょ。人の気も知らないで、花の説明ばかりしているんだから」「それは気を付ける」「気を付けなくていい」美琴がさらりと切り返す。「正太郎は花屋さんなんだから」

R17 上田 上鹿渡 あい

風立ちぬ 堀辰雄

「いま、泣いていらしたんでしょう？」私はびっくりした様子で、急に彼女の方をふり向いた。「泣いてなんかいるものか。……僕を見てごらん」彼女は寝台の中から私の方へその顔を向けようとしなかった。もう薄暗くってそれとは定かに認めがたい位だが、彼女は何かをじっと見つめているらしい。しかし私がそれを気づかわしように自分の目で追って見ると、ただ空を見つめているきりだった。「わかっているの、私にも……さっき院長さんに何か言われていらしたのが……」私はすぐ何か答えたかったが、何んの言葉も私の口からは出て来なかった。私はただ音を立てないようにそっと扉を締めながら再び、夕暮れかけた庭面を見えり出した。やがて私は、私の背後に深い溜息のようなものを聞いた。「ご免なさい」彼女はとうとう口をきいた。その声はまだ少し囁えを帯びていたが、前よりもずっと落着いていた。「こんなこと気になさらないでね……私達、これから本当に生きられるだけ生きましょうね……」私はふりむきながら、彼女がそっと目がしらに指先をあてて、そこにそれをじっと置いているのを認めた。

R18 長野吉田 石川 恵愛

本を守ろうとする猫の話 夏川草介

降り立って振り返れば、トラネコは車内の暗がりから動かず、翡翠の目を静かに光らせている。「一緒に来てくれないのかい?」「必要あるまい。お前はもう、一人で歩いて行けるのだ。」猫は美しく微笑んだ。「行きたまえ、夏木林太郎」「名前を呼んでくれたのは初めてじゃないか?」「認めてやったのだ。歪んだ心は強い。しかし……」いったん猫は口をつぐんで、すぐに吐き出した。「お前のもっと強い」力強い言葉であった。相手をよく知る友であるからこそ口にできる。確かな励みであった。うなずく林太郎の背に、冷たいものが流れている。それほど不快な感覚を伴った冷気が背後から漂ってくる。それでも林太郎は逃げ出したいとは思わなかった。逃げ出すわけにはいかないということが分かっていた。「また会えるかな?」「やめたまえ。別れの台詞としてはあまりに陳腐だ。」いかにも猫らしい手厳しい返答だ。「さらばだ。勇敢なる友よ」飾り気のないその一言が惜別の辞であった。

R19 岡谷南 高橋 歩花
すずめの戸締まり 新海誠

足音が近づいてくる。私はゆっくりと立ち上がり、振り返る。目の曇りを拭き取るように、ぎゅっぎゅっと強く瞬きをする。揺れる草の向こうに、夕焼け色の薄紙に透かしたような人影が見える。ゆったりとした白いワンピースが風に丸く膨らみ、金色の光が長い髪を縁取っている。ほっそりと大人びたその人の口元には、夜明けの細い月みたいに薄くカーブした笑みがある。「すずめ」名を呼ばれる。そのとたん、耳から、指先から、鼻の頭から、その声の波が触れた先端からたちどころに、温かなお湯に浸ったような心地好さが全身に広がっていく。さっきまで風に混じっていた雪片は、いつの間にかピンク色の花びらとなってあたりに舞っている。そうだ。この人は。この人が。ずっとずっと探していた_____。「おかあさん」と呟いた時には、私はもう夢から覚めていた。

R20 松本蟻ヶ崎 水野 陽菜
君の名は 新海誠

眼下には暗いおっぺりとした雲があり、その下の闇の中に、ひょうたん型の糸守湖がぼんやりと見えている。三葉は消えた。夜が来たのだ。三年後の自分の体に、俺は戻っている。俺は右手を見る。手首の組紐は、もうない。手のひらには、書きかけの細い線が一本だけ短く引かれている。その線に、そっと触れてみる。「言おうと思ったんだ。」俺はその線に向かって、小さく独りごちる。「お前が世界のどこにいても、俺が必ず、もう一度逢いに行くって」空を見上げる。彗星の姿はどこにもなく、いくつか星が輝きはじめている。「一君の名前は、三葉」記憶を確認するように、確かな物にするように、俺は目をつむる。「……大丈夫、覚えている！」自信を深めて、目を開く。白い半月が遠い空にある。「三葉、三葉……。三葉、みつは、みつは。名前はみつは！」半月に彼女の名を、俺は叫んでいる。「君の名前は……！」

R21 長野 木村 真衣
蛍と月の真ん中で 河邊徹

靴を履いて、二人で玄関から外に出た。金井さんが先に歩いて、家から数メートル離れた草むらに立つ。ほど良い湿気を含んだ穏やかな風が吹いて、夜の自然の匂いがした。都会にはない、不要なものがそぎ落とされた匂い。足元が見えるのは、月が出ているおかげだった。目線を先にやると、山の稜線が見え、その下に畑や田んぼ、いくつかの小さな家の明かりが見えた。しばらくして目が慣れると、星もくっきり見えるようになってくる。「俺も星なんてしばらく見てなかったけど、さすがに綺麗なあ。」「綺麗ですね」澄んだ星空、辰野の景色、立っている大地の感触までもが、不思議と僕を安心させた。初めて来た場所なのに、ずっと緊張が解けていくようだった。「写真は撮らんでええんか？」「……なんとなく、今日はゆっくり見上げてみたいです」今までの僕なら、走ってカメラを取りにいっただろう。なぜか今は、ただ金井さんと夜空を見上げていたかった。「まあ、これから機会はたくさんあるやろし」僕らはそれから、夜空を見上げながら少しだけ会話をした。時間の流れが、星の動きのようにとってもゆるやかに感じた。

R22 松商学園 大彌 周
君を守ろうとする猫の話 夏川草介

ナナミは目の前の猫に視線を落とした。「あな た・・・猫よね」「感問だな。大に覚えるというのかね」猫が人に向かって夫に見えるのかと問うている。無的に言ってカオスである。もちろん猫の返答に、納得できる要素はみじんもない。「私の知ってる猫は話したしないんだけど」「それは愚問だ。我々は、人間のように無意味なことをべらべらと喋らないだけだ。語るべき時に語り沈黙するときは沈黙する。それが猫だ。」聞いたこともないねこの定義である。ナナミは頭痛持ちでもないのに、何となく頭にてを当てていた。猫は泰然たる態度で続ける。「とにかくわしが君に言えることは言えることは一つだけだ。あの通路には近づくな」「近づくな って・・・あれは何？」「何でもなし」「何でもなくはないでしょ」さすがにナナミの反論にも力がこもる。言い訳をするにしてももう少し別の言い方があるだろう。「どう見たって普通じゃない」「では言い直そう。これは君が関わるべき問題ではない。」浮薄な好奇心を根元から断ち切るような厳然たる応答であった。「この問題は、君が考えているよりはるかに厄介だ。うかつに踏み込めば危険も伴う。ここから先は。。。」「あなたさっきの男のこと何か知っているのね」猫の厳かな声を、ナナミの無遠慮な声が遮った。

R23 松本県ヶ丘 遠藤 百恵
風立ちぬ 堀辰雄

「どうして、私、この頃こんなに気が弱くなったのかしら？こないだうちは、どんなに病気のひどいときだって何んとも思わなかった癖に……」と、ごく低い声で、独り言でも言うように口ごもった。沈黙がそんな言葉を気づかしげに引きのぼしていた。そのうち彼女が急に顔を上げて、私をじっと見つめたかと思うと、それを再び伏せながら、いくらか上ずったような中音で言った。「私、なんだか急に生きたくなかったのね……」それから彼女は聞えるか聞えない位の小声で言い足した。「あなたのお陰で……」それは、私達がはじめて出会ったもう二年前にもなる夏の頃、不意に私の口を衝いて出た、そしてそれから私が何ということもなしに口ずさむことを好んでいた、風立ちぬ、いざ生きめやも。という詩句が、それきりずっと忘れていたのに、又ひょっくりと私達に蘇ってきたほどの、一云わば人生に先立った、人生そのものよりかもっと生き生きと、もっと切ないまでに楽しい日々であった。

R24 長野西 依田 郁子
放課後ひとり同盟 小嶋陽太郎

二年の夏に、告白をしてしまった。美術の授業で描いていた静物画を所定の位置に片付けるときに、絵をのぞき込まれ、「うわ、三崎うめー。おれの見て。へったくそー」無邪気な笑顔で言われたそのあとの休み時間に心臓がぎゅっとして我慢ができなくなり、西村君を廊下呼び出した。西村君が、好きなんだ。西村君は困った顔をして、その顔は本当に困った顔で、むしろ迷惑そうな顔で、それで私は絶望して、さらに、「ごめん、おれ、女の子が好きなんだ」という返事を聞いて、固く縮こまっていた心臓が弛緩して広がって音もなく破裂した。馬鹿かよ私。当たり前だろ。西村君は男で、男だから女が好きで、私は男で、だから私の好意を同じ種類の好意をもって受け止めてくれることはありえない。なんで告白なんかしたんだろう。ごめん、おれ、女の子が好きなんだ。それは当たり前で、同時に、世界で最も私を傷つける言葉だった。

R25 長野吉田 宮本 怜奈

生きる僕ら 原田マハ

「いただきます」そう言ってから、人生は、ちんちくりんなおにぎりにかぶりついた。とたんに、ご飯の甘みと、きゅっと体が縮まるほどの酸っぱさが、口の中いっぱいに広がった。おにぎりは特大の梅干しが入っていた。去年ばあちゃんが作ったという、自家製の梅干し。人生は、しばらく、口の動きを止めた。壮絶な思い出が、一瞬、脳裡を駆け抜けた。少年の頃は食べるのを楽しみにしていた母の梅干しを、忌み嫌うようになった。そしてあるとき、母が買ってきてくれたコンビニのおにぎりに、どういうわけか、梅干しが入っていた。思えばあれがサインだった。母が自分を捨てて、アパートを出ていくときの……。いや、違う。あれは、きつと、母ちゃんが「出ていく」サインだったんじゃない。母ちゃんが、おれに、「出てこい」と突きつけたサイン——切実な願い、だったんだ。人生は、梅干しをご飯と一緒に飲み込んだ。酸っぱくて、ほのかに甘いそれは、喉から胃袋へすんと落ちていった。自分の中に居座っていたわだかまりを、すんなりと溶かすように。「…おいしい」自然と口から言葉がこぼれ出た。

R26 松本蟻ヶ崎 百瀬 柊

新章 神様のカルテ 夏川草介

私は会釈を返しつつ、短く告げた。「今はとにかくできることを続けていきます」「そうですね、でも……」ふいに二木さんの声が少しだけ低くなって聞こえた。と思ったとたん、静かな言葉が飛び込んできた。「死ぬときは家で死にたいと思っています」澄んだ声であった。揺らぎのない、力のある声であった。私は外面だけは何の変化も見せず、しかし答える言葉もないまま、歩み寄ってくる父と娘を眺めていた。しばしの沈黙ののち、やがて傍らで二木さんが小さく頭をさげた。「先生にお願いしたいのは、それだけです」私は何も答えなかった。唐突なそれらの言葉が、何を意味しているのか、どれほどの事実を悟っているのか、わかるはずもないし、確認のしようもない。戸惑ううちに、戻ってきた父と娘の聲が部屋を埋めていく。笑顔に戻った二木さんが、静かな目で私にうなずいた。私は何も問わず、ただ小さく黙礼しただけであった。

R27 岡谷南 中島 由姫

怪物 坂元裕二 佐野晶

湊は切り出したものの、言葉に詰まってしまう。「うん」と伏見がうなずく。「あんまり、わからないんだけどね」「うん」「好きな子がいるの」「そう」伏見の顔に笑みが浮かんでいる。「人に言えないから嘘ついてる。幸せになれないって、バレルから」伏見は少し考えるように首を傾けていたが「じゃあね」と言って棚からホルンを取り上げた。「誰にも言えないことはね」と伏見はホルンのマウスピースに息を吹き込む真似をする。「ふーって」湊はトロンボーンのマウスピースにまた口を押し当てた。息を吹き込むと、驚くような低音が響いた。伏見もホルンを吹いた。伏見のホルンと湊のトロンボーンが会話でもするように、鳴り響いた。まったく曲にはならなかったが、巨大な動物たちが会話しているように聞こえた。伏見はホルンから口を離した。「そんなの、しょうもない。誰かにしか手に入らないものは幸せって言わない。しょうもないしょうもない。誰でも手に入るものを幸せって言うの」

R28 上田染谷丘 北方 紗葉

風立ちぬ 堀辰雄

彼女は寝台の中から私の方へその顔を向けようとしなかった。もう薄暗くってそれとは定かに認めがたい位だが、彼女は何かをじっと見つめているらしい。しかし私がそれを気づかわしように自分の目で追って見ると、ただ空を見つめているきりだった。「わかっているの、私にも……さっき院長さんに何か言われていらしたのが……」私はすぐ何か答えたかったが、なんの言葉も私の口からは出て来なかった。私はただ音を立てないようにそっと扉を締めながら再び、夕暮れかけた庭面を見入りだした。やがて私は、私の背後に深い溜息のようなものを聞いた。「御免なさい」彼女はとうとう口をきいた。その声はまだ少し顫を帯びていたが、前よりもずっと落ち着いていた。「こんなこと気になさらないでね……。私達、これから本当に生きられるだけ生きましようね……」私はふりむきながら、彼女がそっと目頭に指先をあてて、そこにそれをじっと置いているのを認めた。

R29 松商学園 小林 杏由美

orange 時海結似

きょうから高校二年生。始業式の朝、学校へ行こうとして、高宮菜穂は、玄関のドアの下に手紙があるのを見つけた。(ん?) 拾い上げる。切手がはってあって、住所も、名前も書いてある。切手の消印は、かすれてよく読めない。『長野県松本市蟻ヶ崎——高宮菜穂様』(けさ、郵便受けからお父さんが新聞を取り出したときに、落ちたんだろうな。だれからだろう……)と、菜穂はふうとうを裏返した。さしだし人の名は——。『高宮菜穂』(わたし……から?) いっしゅん、意味がわからなかった。「菜穂一つ、遅れるよ一つ」キッチンからお母さんの声がする。「はい」(大変、遅刻遅刻!) 菜穂は、ドアを開け、路地へと出た。学校まで歩いて三十分、でもあと二十五分で始業のチャイムが鳴り、朝のホームルームが始まる。(きょうの日記の内容決定! 『四月六日金曜日 人生初のねぼう』。あ一つ、なんで目覚まし、かけ忘れたんだろ。お母さんも、起こしてくれたらいいのに……)朝ご飯はロールパン一つ、髪もろくにとかさず、飛び出したのだ。

R30 長野 松橋 彩恵

神様のカルテ 夏川草介

この小さな町には、星空をかき消す無粋なネオンや看板が少ない。おかげで深夜ともなると都会では絶対に見られないような見事な星空が街中から見えるのだ。学生時代はよく星を見上げて宴会をしたものだが、この数年、忙しさにかまけてすっかり忘れていた。目が慣れてくると、明るい星たちの間にもさらに別の小さな星が次々と見えるようになり、見上げている間に光の渦に飲み込まれそうになる。私は足を止め、呼吸をするのも忘れてその圧倒的な光の演舞に目を瞬いた。「モンブランの頂上からはもっとすごい星の数が見えるんです。まるで自分まで星のひとつになって飛んでいけそうなくらい」細君の声が聞こえる。優しく、澄んだ、美しい声だ。「でも」駆け戻ってきた細君が、いきなり私の胸に飛びついた。「私はここからイチさんと見上げるこの町の空が一番好きです。一年に一度くらい、こうして散歩できる日がつくれると良いですね」細君は懸命に私は励ましているのである。胸に積もっていた泥のようなわだかまりが、静かに押し流されていく。

R31 松本美須々ヶ丘 小林 琉

河童 芥川龍之介

河童もお産をする時には我々人間と同じことです。やはり医者や産婆などの助けを借りてお産をするのです。けれどもお産をするとなると、父親は電話でもかけるように母親の生殖器に口をつけ、「お前は这个世界へ生れてくるかどうか、よく考えた上で返事をしろ。」と大きな声で尋ねるのです。バッグもやはり膝をつきながら、何度も繰り返してこう言いました。それからテェブルの上にあった消毒用の水薬でうがいをしました。すると細君の腹の中の子は多少気兼ねでもしているとも見え、こう小声に返事をしました。「僕は生れたくはありません。第一僕のお父さんの遺伝は精神病だけでもたいへんです。その上僕は河童的存在を悪いと信じていますから。」バッグはこの返事を聞いた時、てれたように頭をかいていました。が、そこにい合わせた産婆はたちまち細君の生殖器へ太い硝子の管を突きこみ、何か液体を注射しました。すると細君はほっとしたように太い息をもらしました。同時にまた今まで大きかった腹は水素瓦斯を抜いた風船のようにへたへたと縮んでしまいました。

R32 上田 櫻木 理奈

犬神家の一族 横溝正史

「ああ、あのこと……」珠世はいくらか青ざめると、「あたし……知っていたんです。いいえ、知っていたといえまじがいですわ。感じていたんです。全身でもって感じていたんです。くずれた顔を、あの気味の悪い仮面でかくしたひとが、佐清さんでないということを……それは女の直感といいますか……？」「それとも、恋する者の直感では……？」金田一耕助がことばをはさむと、「あら！」と、珠世は頬を染めたが、すぐ、悪びれずに体をまっすぐに起こして、「そうかもしれません。いいえ、きっとそうなのでしょう。とにかく、あたしはあのひとが、佐清さんではないと確信していたのに、手形が一致したというものですから、びっくりしてしまって、これがやっぱり顔のくずれたひとだろうかという疑いが、一瞬頭にひらめいたのです。そこで……」「そこで？」「そこで、あたしはいいたかったのです。仮面をとって……仮面をとって顔を見せて……と」金田一耕助のくちびるから、鋭いうめき声がほとばしった。「そのときあなたがそれをいってくれたら……少なくともあの事件は起こらずにすんだのでしょに……」

R33 長野吉田 前田 明莉

蛍と月の真ん中で 河邊徹

明里はただ嬉しそうな顔でそう言った。もっと、どんな写真だったのかと訊いてくるのかと思ったが違った。「これで、自信を持って東京に帰れるね」「……うん」「東京でも、頑張る。私、本当に応援しているから。」明里の言葉に、僕は頷いた。頷きながら、変な感覚だった。僕はこんなことを言ってもらいたくて、ここに来たのではない気がした。「……ありがとう」僕がそう言うと、二人の間に沈黙が生まれた。お互いに、もう用事が済んだのだとわかる種類の沈黙だった。「私、草取りしないと」「あ、ごめん邪魔して」「ううん、またね」明里は僕の横を通過して、畑へと歩き出した。僕は何をしているのだろう。明里に、何を期待していたのだろうか。一來年の夏は、一緒にゲンジボタル見に行こうね。雪景色の中で、明里がそう言ったのが、遠い昔のことのように思えた。僕は明里に、この町にいてほしいと、引き止められたかったのかもしれない。

R34 岡谷南 共田 華奈乃

霧越邸殺人事件 綾辻行人

——と、突然。背後で微かな音がした。ことん、というなにか硬い物音である。私はぎくりとし、椅子から腰を上げて振り向いた。入口は開けたままにしてある。その青い扉の陰に、ずっと消えていく何者かの影を見たように思った。「誰？」投げた声がひんやりとした薄暗い堂内に、小さな渦を巻くようにして反響する。「誰ですか」答えはなかった。不審に思いつつ、私は入口へ足に向けた。「誰ですか」ともう一声かけて、扉の外を覗いてみる。だが、そこには何者の姿もなかった。今の音は？何かの聞き違いだったのか。今の影は？なにかの見間違いだったのか。——いや、そんな筈はない。いくら睡眠不足で疲れていると云っても。誰かが、確かにいたのだ。礼拝堂に入ってこうとして私の姿に気がつき、踵を返した。声をかけられても返事もせず、そのままこの場を立ち去ってしまったのだ。いったい何者だったのだろう。

R35 松本美須々ヶ丘 小林 汰槻

放課後ひとり同盟 小嶋陽太郎

季節は冬を迎えていた。私はまた、パルコの屋上にいた。蹴り男もいた。蹴り男は釈放されたらしく、足もとに水筒とタオルを携えて相変わらず空を蹴っていた。ダウンを着ていた。「こんにちほ。久しぶりですね」「あああ！」私の顔を見るなり、蹴り男は妙な声をあげた。「君、蹴るのをさぼっていたな、すごい数の不幸だ！蹴らなきゃ、すぐに蹴らなきゃ！」蹴り男の目はやはり充血して、焦点が合っていなかった。私は蹴り男の足もとにある水筒を手にとった。「空から不幸なんか落ちてこないよ。あんた、まずお酒をやめないと」私は水筒のふたを外し、中に入っていた透明の液体をすべて床に流した。嗅ぎなれないアルコールの匂いがコンクリートの地面から立ちのぼり拡散した。蹴り男は呆然として、酒が地面を濡らす様子を黙って見ていた。「世の中そんなに不幸だらけじゃないっすよ。お酒をやめて、蹴るのもやめて、ちゃんと生きてればたぶんそれがわかります。よく見てくださいよ。空に不幸なんかないでしょ？」十二月の空は、いまにも雪が降りだしそうなくらい白かった。

R36 松商学園 田中 裕理

秒速5センチメートル 新海誠

一緒にの中学にはいけなくなっちゃったの、と明里は言った。父親の仕事の都合で、春休みの間に北関東の小さな町に引っ越すことが決まってしまったのだと。今にも泣き出しそうな震える声。僕にはわけが分からなかった。体がふいに熱くなり、頭の中心がさっと冷たくなる。明里が何を言っているのか、なぜこんなことを僕に言わなければならないのか、よく理解できなかった。「え、だって、西中はどうすんだ？せっかく受かったのに」と、やっとのことで僕は口に出した。「栃木の公立に手続きするって、ごめんね」受話器からは車の行き交うくぐもった音がして、それは明里が公衆電話にしていることを示していた。僕は自分の部屋にいたけれど、電話ボックスの中の冷氣が指先から伝わってくるように、畳にうずくまり膝を抱えた。どう答えていいかわからず、それでもとにかく言葉を探した。「いや、明里が謝ることないけど……でも……」「葛飾の叔母さんちから通いたいって言ったんだけど、もっと大きくなってからじゃないと駄目だって……」明里の押し殺した鳴咽が聞こえ、もう聞いていたくない、と瞬間的に強く思った。気がついた時には僕は強い口調を明里に投げつけていた。「、わかったから！」と明里の言葉を遮った瞬間、かすかに彼女の息を呑む音が聞こえた。それでも言葉を止めることができなかった

R37 上田染谷丘 平野 七菜

言の葉の庭 新海誠

雨と葉の混じった横殴りの風が体に吹きつけ、二人は思わず歓声を上げる。清潔で鮮烈な雨の匂いに囲まれ、世界中の空気がすべて入れかわったかのようだ。気づけば、ついさっきまでの会話も感情も、きれいに雨に流されている。学校での出来事も夏休みの孤独も、ぜんぶがきれいに消えている。「私、夏のどしゃぶりって大好き」滝のように底から流れ落ちる雨を見上げ、嬉しそうに雪野が言う。「俺もです。俺は、季節は夏がいちばん好きです」「暑いのも?」「暑いのも。湿気も、汗がだらだら流れるのも、喉が渇くのも。生きてるって感じがして好きです。雪野さんは?」「私も夏が好き。夏と、それから春。新しいことが始まって、どんどん育っていく季節だから。寒い季節は体が冷えちゃうからきらい」そんな理由。おかしくなって孝雄は言う。「雪野って名前なのに、」「冬はきらい」と言葉をつなげて雪野は笑う。

R38 松本蟻ヶ崎 下沢 桜貴

始まりの木 夏川草介

息の詰まるような静けさの中、わずかに身を乗り出していた住職が、ゆっくりと背後の柱に肩を預け戻した。「桜が咲いたのさ」さらりとそんなことを言った。「桜?」「満開だよ。絶景だったぜ」「満開って……」息子の困惑も当然だ。境内にあるのは、花とは縁のない黒い老木である。千佳の目にもそう見える。だが住職はほのかな笑みを浮かべて、変わらず満足そうに石畳の先を眺めている。「どうかしたの?」と後ろから顔をのぞかせた嫁に、息子は軽く肩をすくめながら、「父さんが桜が咲いたって……」「桜?」同じような反応で、巨木に目を向けてから、二人して困った顔を見合わせている。どう返事をしたものか困惑して立っている二人に向けて、住職はまるで興味を失ったように応じない。立ちこめかけた微妙な沈黙を、しかし古屋の声が静かに押し流した。「夕日が差し込んだのですよ」冷静な声であった。「ちょうど夕日の光があのお木に差し込んで、まるで桜が咲いたように見えたのです」

R39 岡谷南 浦沢 咲音

わたしの幸せな結婚 顎木あくみ

名を呼ぶ声はとても柔らかく、それだけで美世を幸福にさせる。「これで、私の髪を結ってくれるか?」「はい。…喜んで」清霞が髪紐を拾い上げ、差し出してくる。それを受け取り、美世は膝立ちで彼の背後にまわった。結麗な髪。まるで絹糸のように、さらさらとしていて艶やかだ。うっかり、羨ましくてため息が出てしまいそうなほど。とても貴重で高価な宝物に触れている心地で、恐れ多くて手が震える。「で、できました」なんとか簡単に緩くまとめて髪紐を結んだ。髪紐が清霞に見えるように、まとめた髪を肩から前に垂らす。結んでみると、想像していたよりも美世の作った髪紐は清霞の透けるような薄茶の髪によく似合っている。髪紐の色は、紫色。派手過ぎず上品で、清霞にぴったりだ。「綺麗な色だな」清霞は結ばれた髪紐の端をちょい、とつまんでみて、口元をほころばせた。(ああ、どうしよう。とってもし心臓がうるさいわ……))

R40 松商学園 中村 渚紗

愛の疾走 三島由紀夫

美代は今度はゆっくり八東のまわりを迂回して近づいて来た。氷の反映で、上気した顔が、人工的なほど美しく見えた。光がくっきりと、スウェーシアの胸のふくらみを際立たせていた。「おどろいた?」「ああ」「『ああ』だけ?つまんないな」「丁度よかったんだ。今、一仕事終わったところだ」と修一は魚籠の中に跳ねている寒鮎をのぞかせた。「さあ、一緒にえろう。その袋もここへ置いていけよ」「よかった。私、お仕事の邪魔をするのが心配だったの」と美代は質実な声で言った。丈の高い萱かげで二人は接吻したが、修一が両手で美代の頬を包むと、それは汗ばんでいて果実の様な匂いを立てていた。「すてきな。僕は倅せだ」と修一はあたりの湖へ、空へ、高い萱の草むらへ、宣言するような口調で言った。美代は答えないで、氷の上へのぼしていた脚をすくっと立てて、忽ち数米先へ逃げて、「ここまで来たら、棄美をあげよ」と手袋の両手を叩いた。「よし」と修一は身を起こして追いかけた。

R41 上田染谷丘 宮寄 凜

君の名は。 新海誠

「来た……」三葉が空を見て、かすかに震えた声で呟く。視線を追うと、濃紺に染まりつつある西の空に、長く尾を引くティアマト彗星の姿がうっすらと浮かびはじめている。「大丈夫、まだ間に合う」俺は自分に言い聞かせるように、強く言う。「うん、やってみる。……あ、カタワレ時が、もう——」そう喋る三葉も、いつの間にか淡い影色になっている。「——もう、終わる」俺も言う。空からは、夕陽の名残がほとんど消えつつある。もうすぐ夜が来る。ふいに湧きあがってきた不安を押し込むように、なあ三葉、と笑顔を作って明るく言う。「目が覚めてもお互い忘れないようにさ」俺はポケットからサインペンを取り出す。三葉の右手を掴み、手のひらにペンで文字を書きつける。「名前書いておこうぜ。ほら」そう言って、今度は三葉の手にペンを持たせる。「……うん!」花が咲くみたいに、三葉がぱっと笑顔になる。

R42 松本蟻ヶ崎 町田 明咲

小説・秒速5センチメートル 新海誠

明里はその時、いちめんに舞う桜の花びらを雪のようだと言ったのだと思う。でも僕にはそうは見えなかった。その時の僕にとっては桜は桜、雪は雪だった。「ねえ、まるで雪みたいだね」「え、そう?そうかな……」「ふーん。まあいいや」と明里はそっけなく言ってから、僕より二歩ほど先でくると振り向いた。栗色の髪の毛が空を映してきらきらと光り、そしてふたたび謎めいた言葉を口にした。「ねえ、秒速五センチなんだって」「え、何が?」「なんだと思う?」「わかんない」「すこしは自分で考えなさいよ貴樹くん」そんなことを言われても分からないので、僕は分からないと素直に言う。「桜の花びらの落ちるスピードだよ。秒速五センチメートル」びょうそくごせんちめーとる。不思議な響きだ。僕は素直に感心する。「ふーん。明里、そういうことよく知ってるよね」ふふ、と明里は嬉しそうに笑う。

R43 松本美須々ヶ丘 小口 そら

母 久米正雄

「何か御用なのですか」と先生は静かに尋ねた。そして有名な人が自分の名を言う時に感ずる一種の誇りで、「私は矢田部ですが」と付け加えた。婦人は答える前に一つ長い礼をした。それはあたかも今発表せられた矢田部という名に対して、ことに敬意を払ったかのごとくであった。「私は今日試験を受けにまいているものの母でございますが——」とその婦人は女が系統を立てて話をする時によくする抑揚で言い始めた。「ちょうど昨夜から体が少々発熱をいたしまして、今朝も受験は見合ったらよかろうというのを押して出てまいりましたので。ひょいとして試験場で卒倒でもして皆さまに御迷惑でも掛けてはなんですから、そんなことがあったら早速私が看護してやろうと思ひまして、薬などを用意してまいった次第なのでございます。まことにお恥ずかしいところをお目にとまって恐れ入ります」先生はその話をふむふむとうなずいて聞きながら教育家の感動を抑え切れなかった。

R44 松本蟻ヶ崎 羽部 ひかり

蜂蜜と遠雷 恩田 陸

少年の白い指がひらりと舞った。本当に、月光の中に舞い上がった蝶のように。ドビュッシーの月の光。ああ、本当に、綺麗な月。この曲を聴くと、いつもまざまざと窓の外に夜空が目に見え、さえずえとした、しかし柔らかな月光が、すべての音が消えた世界に降り注ぐさまが見えるような気がする。しかも、この少年が弾くと、モノクロームに沈んだカーテンの模様まで見える一月の光に、巻き込まれる一月夜の魔法にかかる——またしても身体の底から湧き上がる衝動に突き動かされ、亜夜は隣に座って一緒に「月の光」を弾き始めていた。互いにアレンジをし、うねり、寄せては返す月の光の波に身を任せる。うわあー亜夜は、全身をビリビリと電流のような歓喜が押し寄せてくるのに眩暈がした。風間塵が笑っている。大きく口を開け、笑っている。いつのまにか、亜夜も一緒に笑っていた。

R45 松本美須々ヶ丘 山本 葵

芙蓉の人 新田次郎

千代子は、東京を発つ日を十日後と指定した。自分のことだとしても、一応は、到の気持ちを訊いてから決めるべきであり、なにごとにも、そのような順序を踏んでいた千代子が今度に限って、十日後と一方的に決めたことに到は、いままでない千代子をそこに見たような気がした。「どうしても来るのか」「どうしても行きます。どこまでもあなたの後に従って行きますわ」千代子は二重瞼の大きな眼を見開いて到を見詰めていた。瞬きをしない千代子の眼の中には彼女の決意があった。どうしてもついて行くと云い切って自ら興奮したのか、千代子の丸い頬のあたりが紅潮していた。「しょうがない女だ」到は、そう云ったとき千代子を許していた。そして彼は千代子のそのことばの中に、まさか頂上までついて行くつもりで云っているのではない、そんなことはあり得ないのだと打ち消しながらも、いま到の前に立っている千代子の眼の中にいままでの千代子の中に見たことのない、形容しがたいほど激しいなにかがくさされているのを見て取ると不安でならなかった。

R46 松商学園 田中 千愛

星を追う子ども 新海誠

不意に、アスナを抱きしめた。「え？ちょ、お母さん、どうしたの？」「……アスナ、落ち着いて聞いて」その声色にただごとでない何かを感じて、アスナは息を呑む。「……うん」その声は重く、アスナに嫌な予感を抱かせるのに充分だった。母は、ゆっくりと、幼い子にかみ砕いて聞かせるように言った。「あなたのスカートを腕に巻いた男の子の遺体が、あなたの好きな高台の下に河原で見つかったの。アスナ……その子、亡くなったのよ」「——」アスナはその言葉を呑み込みかねて、一瞬の間を置き、とにかく否定しなければならないと思った。そんなのあり得ない。現実じゃない。受け入れるわけにはいかない。シュンが、死んだなんて。「それは、人違いだよ」「……アスナ」「大丈夫、違うもん。心配しないで」一気に喋るしかなかった。不安に押しつぶされたいために。「あ、雨だから、外食はまた今度にしない？私、宿題やっちゃうね」そう言ってアスナは、自分の部屋へと駆け出す。

<番組部門>

AM 部門 制作意図

AM1 松商学園

消えかけ

過疎化や後継者不足が進む中、地域のお祭りは存続の危機にあります。取材を進めると、伝統を守りたい気持ちはありながらも、担い手がいない現実の前で立ち止まってしまう人たちの姿が見えてきました。お祭りは地域の誇りであり、人と人をつなぐ大切な文化です。この番組を通して、皆さんも自分の地域のお祭りに目を向け、地域の未来について考えるきっかけになればと思います。

AM2 岡谷南

大きく振りかぶって

「大きく振りかぶって」と聞いて、何を想像しますか？ バッターボックスの光景や力強くボールを投げる動作かもしれません。私たちは、グラウンドではないある場所で大きく振りかぶる人たちの情報をキャッチしました。それはなんと、神社です。調査をすると、結構多くの人たちが振りかぶっていることがわかりました。その先の大切なことは本当は何なのか。音の再現をするために大量課金した成果もどうぞお聞きください。

AM3 松本蟻ヶ崎

笑顔届けたい

「私たちの周りには、病気の影響で日常に困難を抱えている方々がいます。私たち放送部は数ある支援活動の中から、帽子を作り提供している「ケアぼうしの会」さんを見つけました。この活動を知る中で、帽子に込められた温かい想いやそれを受けとった方々の笑顔に触れ、支え合うことの大切さを学びました。この活動を多くの人に知ってもらい、誰かに笑顔届けたいという気持ちで制作しました。」

AM4 長野西

帰り道の味

みなさん長野の郷土料理といえばおやきが出てくると思っています。焦げ目の香りが香ばしくて美味しいですね。そんなおやきと家の相続問題を混ぜ合わせたのをテーマにラジオドラマを作りました。効果音で時代背景や情景をうまく表現しました。

AM5 大町岳陽

瓶から、もう1歩

松田乳業の歴史と消費者の声を通して、時代が変わっても「松田牛乳」が愛され続ける理由を伝えたいと思い制作しました。瓶から紙パックへと形は変わっても、そこに込められた思いや味へのこだわりは変わりません。長年親しまれてきた牛乳瓶の終わりから、新たに紙パックへと踏み出す松田乳業の努力を感じていただけたら嬉しいです。

AM6 松商学園

火焰を打つ

日本の伝統芸能である「太鼓」。ここ松本にもその伝統を伝え続ける団体があります。しかし、今、コロナや後継者不足の影響で伝統を繋げるのが難しい状況にあります。その中でも伝統を繋いでいこうと努力する地域と団体取材しました。伝統を繋げ続ける現状と葛藤を伝える番組です。

AM7 岡谷南

鼓動

近所で大きな音がしていたらどう感じますか？最近騒音への風当たりが厳しくなっています。でも私たちは大きな音でも、許せない音と許せる音があると気付きました。岡谷市には、むしろ大きな音を出すお祭りがあります。その音は1キロ先まで聞こえ、二晩に渡って街中に鳴り響きます。ではこの音は、地域の人たちにとって「騒音」なののでしょうか。街にとって音とは何なのかを考えるきっかけになれば嬉しいです。

<番組部門> VM 部門 制作意図

VM1 松商学園

繫心

長野県塩尻市。ワインが有名な地。橋本美範さんはそんな場所に、「自分のやりたいことを悔いのないようにしたい」と思い立って、3年前に東京から移住してきました。ワインの町・塩尻で出会った人々、そして家族との絆が、彼女の新しい人生を形づくっていきます。移住への想いと、家族で紡ぐ物語に迫ります。

VM2 松本県ケ丘

「満州」勤労奉仕の思い出

長野県は戦時中、多くの人を満蒙開拓団として満州へ送り出した過去があります。本番組では、勤労奉仕として7か月間満州に渡った山口元女さん取材しました。戦争体験者の高齢化が進む今、その体験を直接聞ける機会は少なくなっています。戦後80年を迎えた今年、改めて日本の戦史を見つめ直す必要があるのではと思い、番組

を制作しました。青春を国策に捧げた人々がいたからこそ平和な今があることを伝えたいです。

VM3 大町岳陽

麓の街からつなぐ

私たちの学校がある大町市は北アルプスの麓にあります。この街に三俣山荘図書室があります。ここには山に関するさまざまな本が置いてあり、山の持つ魅力を多面的に知ることができます。この図書室は大町市を再び登山文化の街にするというプロジェクトを行っています。このプロジェクトの実現を目指して、図書室が伝える山と人と街のつながりの大切さを表現したいと思い、この番組を制作しました。

VM4 松本蟻ヶ崎

心を育てる

私たちは長野県松本市でバドミントンを教えている「すどう塾」取材しました。取材をしていくと、この塾で教えていることはバドミントンの技術だけでは無いことがわかってきました。厳しい練習ですが、子どもたちもコーチも親もやる気に満ちあふれています。そんな、心を育てているすどう塾の魅力を伝えたくて、この作品を作りました。

VM5 岡谷南

夢、あたため中です！

みなさんの中にはアルバイトをしている人もいます。では、そこで販売している商品や価格は誰が決めたのですか？貰っている給料・時給を決めるのは誰でしょう。茅野駅前にあるヤツガタケマートでは、高校生が経営者として店を運営しています。価格や時給まで自分たちで決めています。しかし現実には甘くなく、経営はとても大変です。コンビニ経営を通して社会と将来を考える高校生たちに密着しました。

VM6 上田

ひとつの駅から

私達の通う高校の最寄り駅である上田駅には、三社の鉄道路線が走っています。しなの鉄道、上田電鉄別所線、JR 東日本の運営する北陸新幹線です。これらの鉄道は、通勤・通学・観光などに利用する様々な人にとって欠かせない存在となっています。そんな上田駅鉄道の三社は地域に貢献したいという思いを胸に、毎年合同で「うへだ鉄道まつり」というイベントを開催しています。地域を支え、一つの駅から魅力を発信していこうとする鉄道会社と、その思いに触れる来場者の姿を伝えたくて、この番組を制作しました。

VM7 松商学園

One Soul

松本市と深い関わりを持つ松本山雅 FC には、スタッフやアルバイトのほかに、チームを支えるボランティア団体のチームバモスがあります。彼らは、選手や観客のために思いを込めて活動し、日本一のおもてなしを目指しています。チームバモスの方々がどのような気持ちで活動しているのかを追い、地域と共に歩む姿を伝える番組です。

放送部門参加要項

1 目的

- (1) 全国の高校生が、作品の制作や発表を通して全国の仲間と交流を深める。
- (2) 作品や原稿の作成を通して、自らの郷土を新たな視点でもう一度見つめ直す。
- (3) 美しい日本語を、アナウンス・朗読・ナレーションで表現することにより、言葉による表現の素晴らしさを再認識する。

2 日時

令和8年7月29日（水） 9:00～18:00（予定）

7月30日（木） 9:00～17:00（予定）

3 会場

会場名	大曲市民会館・大曲交流センター
所在地	〒014-0063 秋田県大仙市大曲日の出町2丁目6番50号
連絡先	TEL 0187-63-8766
HPアドレス	https://www.city.daisen.lg.jp/docs/2013110800215

4 参加資格

全国高等学校総合文化祭開催基準規程第10条に基づき、参加資格を有する者としてします。

5 参加校推薦書

各都道府県の高等学校（芸術）文化連盟の指示に従ってください。

6 参加負担金

アナウンス・朗読部門は発表生徒1人につき1,000円、AM・VM部門は1作品につき1,000円とします。なお、納入方法等については、令和8年3月に公表予定の「参加要領」等でお知らせします。

7 著作権等について

- (1) 参加校、出演者、出品者等は、著作権、肖像権、プライバシー等の権利者の許諾が必要な場合に責任をもって所定の手続きを行ってください。なお、万が一権利の侵害から生じるトラブルが発生した場合、本大会実行委員会は、一切の責任を負いません。
- (2) 発表等にかかる著作権等は、全国高等学校文化連盟に帰属するものとします。
- (3) 本大会実行委員会は、参加者の肖像（演奏・演技・展示・発表・競技等を行っている様子や肖像、衣装、シナリオ、対戦表、作成物等）及び著作物、展示してあるものの写真や映像の全部又は一部を、記録集等の紙媒体の作成、DVDまたはBlu-ray Disc等の映像記録媒体の作成、ウェブページ、SNS（X（旧Twitter）、Instagramなど）等への掲載、各種メディア（テレビ・新聞・雑誌・インターネットなど）及び全国高等学校総合文化祭後催催県、地方公共団体等に提供し、活用することがありますので、あらかじめ御了承ください。

8 部門・出品基準、発表者及び出品数

部 門	出 品 基 準	発表者 出品数
アナウンス 部門	(1) 郷土（所属する学校のある都道府県内）の話題を高校生に伝える内容の原稿を作成し、発表してください。 (2) 発表時間は、学校名・氏名を含めて1分30秒以内とします。 (3) デジタル静止画像は使用できません。 (4) 効果音やBGMは使用できません。	3名
朗読部門	(1) 郷土（所属する学校のある都道府県内）にゆかりのある作家の作品、または郷土を舞台とした作品の中から原文の一部を選び、原稿として発表してください。 (2) 発表時間は本文のみで1分45秒以内とします。 (3) 学校名・氏名・作者名および作品名は前方に投影し、読み上げはしません。 (4) デジタル静止画像は使用できません。 (5) 効果音やBGMは使用できません。	3名
オーディオ メッセージ (AM) 部門	(1) 郷土（所属する学校のある都道府県内）の話題を高校生に伝える内容の作品にしてください。 (2) ステレオ音声で構成された自校オリジナルの作品とします。 (3) 発表時間は4分以内とします。 (4) デジタル静止画像は使用できません。 (5) 作品の再生は、開催県（秋田県）が行います。	1作品
ビデオ メッセージ (VM) 部門	(1) 郷土（所属する学校のある都道府県内）の話題を高校生に伝える内容の作品にしてください。 (2) 自校オリジナルのビデオ作品とします。 (3) 発表時間は4分30秒以内とします。 (4) 作品の再生は、開催県（秋田県）が行います。	2作品

※ 発表者・出品数は、開催県については、それぞれの部門について2倍まで可とします。

※ 氏名等を投影する際、表示が困難な文字は代替文字で表示しますことを、あらかじめ御了承願います。

9 規格

部 門	出 品 基 準
アナウンス 部門	(1) 立ちマイク、座りマイクを選択できます。 (2) 台本の様式に関して指定はありません。
朗読部門	(1) 立ちマイク、座りマイクを選択できます。 (2) 台本の様式に関して指定はありません。
オーディオ メッセージ (AM) 部門	(1) ステレオ音声で収録してください。 (2) 作品は大会事務局が指定するWeb提出フォームへアップロードしてください。Web提出フォームへのアップロードができない場合は、作品を拡張子がmp3のデータ形式でCD-Rに保存し、提出してください。 (3) 作品を提出する際に大会事務局が指定する基準音声信号に音声レベルを合わせて提出するようお願いします（「提出物一覧」にて別途指示します）。 (4) 作品のバックアップは原則必要ありません。
ビデオ メッセージ (VM) 部門	(1) 作品は大会事務局が指定するWeb提出フォームへアップロードしてください。Web提出フォームへのアップロードができない場合は、作品を拡張子がmp4のデータ形式（アスペクト比16:9、H. 264コーデック、HD画質以下（解像度1080[1920×1080]以下））でBD-Rまたは DVD-Rに保存し、提出してください。 (2) 作品本編の前後に大会事務局が指定するテストパターン等を録画してください（「提出物一覧」にて別途指示します）。 (3) 作品のバックアップは原則必要ありません。

10 留意事項

各部門とも、提出作品は他のコンクール等に参加していない作品とします。

11 発表順

- (1) 香川大会の理事会において抽選を行い、開催県（秋田県）2 + 都道府県46の合計48エントリーを、各部門6エントリーずつ8つのブロックに分けます。
- (2) ブロック分けにおいて、運営上必要がある場合に限りブロックの変更を開催県が依頼することがあります。
- (3) 抽選結果に基づき、グループ内の発表順を都道府県に割り当てます。参加申し込みの際に都道府県放送専門部事務局で入力してください。

12 審査講評及び表彰

- (1) 審査及び講評は、開催県（秋田県）で委嘱した審査員により行います。
- (2) 優秀賞は、各ブロックで最も高い合計点の発表・作品に授与します。また特別賞は、部門の基準に照らして、表彰に値すると認められた発表・作品に授与します。
- (3) アナウンス部門優秀賞8名、朗読部門優秀賞8名、オーディオメッセージ部門優秀賞4作品、ビデオメッセージ部門優秀賞8作品の中から、審査員の協議により、各部門の最上位に文部科学大臣賞、次点に文化庁長官賞を授与します。
- (4) 講評会及び表彰式は、閉会式に先立って行います。

13 大会日程

内 容	日 程	時 間		会 場
部門大会	令和8年7月29日（水）	開会式	9：00～（予定）	大曲市民会館大ホール
		朗読	10：10～（予定）	大曲市民会館小ホール
		AM	10：10～（予定）	大曲市民会館大ホール
		VM	15：10～（予定）	大曲市民会館大ホール
	令和8年7月30日（木）	アナウンス	9：00～（予定）	大曲市民会館小ホール
		VM	9：00～（予定）	大曲市民会館大ホール
		閉会式	16：30～（予定）	大曲市民会館大ホール
生徒交流会	令和8年7月30日（木）	15：45～16：10（予定）		大曲市民会館大ホール

14 関係会議

名 称	日 程	時 間	会 場
常任理事会	事前開催（オンライン）		（オンライン）
次年度抽選	令和8年7月28日（火） （予定）	14：00～14：30	大曲交流センター講堂
理事会		14：30～16：00	

※ 常任理事会は、7月中旬にオンラインで行います。（期日未定）

15 作品の提出

都道府県単位で一括して送付してください。

16 その他

詳細については、令和8年3月に公表予定の「参加要領」等でお知らせします。

17 問合せ先

	放送部門事務局	実行委員会事務局
所在地	〒015-8543 由利本荘市川口字愛宕山1-1	〒010-0951 秋田市山王四丁目1-2
名 称	秋田県立由利高等学校内 第50回全国高等学校総合文化祭 放送部門代表委員 工藤 卓哉 くどう たくや	秋田県教育庁高校教育課 全国高等学校総合文化祭推進室内 第50回全国高等学校総合文化祭 秋田県実行委員会事務局
連絡先	TEL 0184-22-3219 FAX 0184-22-3220 E-mail housou@e-akita.ed.jp	TEL 018-860-1433 E-mail kousoubun2026@pref.akita.lg.jp
その他	大会公式ホームページに情報を掲載しますので、定期的に確認ください。 https://akita-soubun2026.pref.akita.lg.jp/	